Canon

EOS 5D Mark II

使用説明書

Canon EOS 5D Mark II 使用説明書 J

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS 5D Mark II は、有効画素数約2110万画素・約36×24mmフルサイズCMOSセンサー、DIGIC 4、高精度・高速9点AF（＋アシスト測距点：6点）、約3.9コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影・Full HD（フルハイビジョン）動画撮影機能を搭載した、高性能デジタル一眼レフカメラです。

本機は、いつでもすぐに撮影できる優れた機動性、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能、撮影領域をさらに拡大する幅広いシステム拡張性など、さまざまな特長を備えています。

撮影しながら操作すると理解が深まります

デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（12、13ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

CFカードについて

本書では、CFカードのことを「カード」と表記しています。なお、画像を記録する**CFカードは付属していません**。別途ご購入ください。

カメラと主な付属品

ご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ
（アイカップ、
ボディキャップ付き）

電池
バッテリーパック
LP-E6
（保護カバー付き）

充電器
バッテリーチャージャー
LC-E6

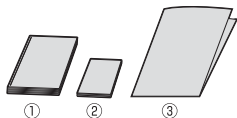
ワイドストラップ
EW-EOS5DMKII

インターフェースケーブル
IFC-200U

ステレオビデオケーブル
STV-250N

EOS DIGITAL
Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア
使用説明書

お客様ご相談窓口、
修理受付窓口一覧／
安全上のご注意

① **カメラ使用説明書**（本書）

② **ポケットガイド**
すぐに撮影したい方は、このガイドをご覧ください。

③ **CD-ROMガイド**
付属ソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk）とソフトウェア使用説明書のガイドです。

※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
※ レンズキットの種類により、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
※ 付属品は、なくさないように注意してください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

〈 〉：メイン電子ダイヤルを示しています。

〈 〉：サブ電子ダイヤルを示しています。

〈 〉：マルチコントローラーを示しています。

〈 〉：設定ボタンを示しています。

4／6／10／16：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラに使われている絵文字を使用しています。

MENU：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用：ページタイトル右の応用は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。
* 全自動（ /CA）モードでは使用できない機能です。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

?：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

：補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉または〈 〉になっていることを前提に説明しています（p.27）。
- 〈 〉の操作は、電源スイッチが〈 〉になっていることを前提に説明しています。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- EF50mm F1.4 USM（一部 EF24-105mm F4L IS USM）レンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

章	タイトル	ページ
	はじめに 本製品の基礎知識が得られます	2
1	撮影前の準備と操作の基本	23
2	かんたん撮影 カメラまかせの撮影方法	47
3	画像に関する設定	53
4	AF／ドライブの設定	77
5	撮影目的にあわせた応用撮影 高度な撮影機能を使う	87
6	ライブビュー撮影と動画撮影 液晶モニターを見ながら撮影	107
7	画像の再生	127
8	撮像素子の清掃	147
9	画像の印刷とパソコンへの転送	153
10	カメラをカスタマイズする	171
11	資料	189

目　次

はじめに

カメラと主な付属品 3
本使用説明書上のおことわり 4
章目次 5
機能目次 10
取り扱い上のご注意 12
すぐ撮影するには 14
各部の名称 16

1　撮影前の準備と操作の基本　23

電池を充電する 24
電池を入れる／取り出す 26
電源を入れる 27
CF カードを入れる／取り出す 29
レンズを取り付ける／取り外す 31
レンズの手ブレ補正機能について 33
撮影の基本操作 34
クイック設定画面の操作 38
MENU メニュー機能の操作と設定 40
使い始める前の準備 42
　表示言語を設定する 42
　日付／時刻を確認する 42
　カードを初期化する 43
　電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ 44
　カメラの機能設定を初期状態に戻す 45
　著作権情報について 46

2　かんたん撮影　47

□ 全自動で撮る 48
□ 全自動を使いこなす 50
CA クリエイティブ全自動で撮る 51

3　画像に関する設定　53

記録画質を設定する..54
ISO: ISO 感度を設定する..57
ピクチャースタイルを選択する..................................59
ピクチャースタイルを調整する..................................61
ピクチャースタイルを登録する..................................63
WB: ホワイトバランスの設定....................................65
　マニュアルホワイトバランス..................................66
　色温度を直接設定する..67
ホワイトバランスを補正する....................................68
レンズの周辺光量を補正する....................................70
フォルダの作成と選択..72
画像番号の付け方を設定する....................................74
色空間を設定する..76

4　AF ／ドライブの設定　77

AF: AF モードの選択..78
AF フレームの選択..81
AF の苦手な被写体..84
　MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）..................84
ドライブモードの選択..85
セルフタイマー撮影..86

5　撮影目的にあわせた応用撮影　87

P: プログラム AE 撮影..88
Tv: シャッター速度を決めて撮る................................90
Av: 絞り数値を決めて撮る......................................92
　ピントの合う範囲を確認する..................................93
M: 自分で露出を決めて撮る......................................94
測光モードの選択..95
自分の好みに露出を補正する....................................96
露出を自動的に変えて撮る／ AEB 撮影............................97
露出を固定して撮る／ AE ロック撮影..............................98
B: 長時間露光（バルブ）撮影....................................99
ミラーアップ撮影..101

リモコン撮影 102
ストロボを使った撮影 103
ストロボの機能を設定する 105

6 ライブビュー撮影と動画撮影 107

ライブビュー撮影の準備 108
撮影する 110
AF でピントを合わせる 113
手動でピントを合わせる 119
静音撮影する 120
動画を撮影する 121

7 画像の再生 127

画像を再生する 128
INFO. 撮影情報の内容 129
見たい画像を素早く探す 131
拡大して見る 133
回転させる 134
自動再生する（スライドショー） 135
動画を再生する 137
テレビで見る 139
保護する（プロテクト） 141
消去する 142
再生に関する機能の設定を変更する 144
液晶モニターの明るさを調整する 144
撮影直後の画像表示時間を設定する 145
縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定 146

8 撮像素子の清掃 147

撮像素子の自動清掃 148
ゴミ消し情報を画像に付加する 149
手作業で撮像素子を清掃する 151

9 画像の印刷とパソコンへの転送 153

印刷の準備をする 154
印刷する 156
　トリミング（印刷範囲）の設定 161
画像を印刷指定する／ DPOF 163
印刷指定画像のダイレクトプリント 166
パソコンに画像を送る 167

10 カメラをカスタマイズする 171

カスタム機能の設定方法 172
カスタム機能一覧 173
カスタム機能で変更できる内容 174
　C.Fn I ：露出 174
　C.Fn II ：画像 176
　C.Fn III：AF・ドライブ 178
　C.Fn IV：操作・その他 182
マイメニューを登録する 186
C1 カメラユーザー設定の登録 187

11 資料 189

INFO. 設定状態の確認 190
電池情報を確認する 192
家庭用電源を使用する 196
日付／時計機能用電池を交換する 197
撮影機能の組み合わせ一覧 198
メニュー機能一覧 200
故障かな？と考える前に 203
エラー表示 209
システム図 210
主な仕様 212
索　引 223

機能目次

電源

●電池
- ・充電 ➔ p.24
- ・電池チェック ➔ p.28
- ・電池情報確認 ➔ p.192

●家庭用電源 ➔ p.196
●オートパワーオフ ➔ p.44

レンズ

●取り付け/取り外し ➔ p.31
●ズーム ➔ p.32
●手ブレ補正 ➔ p.33

基本設定（メニュー機能）

●言語 ➔ p.42
●日付/時刻 ➔ p.42
●液晶の明るさ調整 ➔ p.144
●電子音 ➔ p.200
●カードなしレリーズ ➔ p.29

画像記録

●カード初期化 ➔ p.43
●フォルダ作成／選択 ➔ p.72
●画像番号 ➔ p.74

画質

●記録画質 ➔ p.54
●ISO感度 ➔ p.57
●ピクチャースタイル ➔ p.59
●色空間 ➔ p.76

●画質向上機能
- ・オートライティングオプティマイザ ➔ p.177
- ・レンズ周辺光量補正 ➔ p.70
- ・長秒時露光ノイズ低減 ➔ p.176
- ・高感度時ノイズ低減 ➔ p.176
- ・高輝度側階調優先 ➔ p.177

ホワイトバランス

●ホワイトバランス設定 ➔ p.65
●マニュアルWB ➔ p.66
●色温度設定 ➔ p.67
●ホワイトバランス補正 ➔ p.68
●WBブラケティング ➔ p.69

AF

●AFモード ➔ p.78
●AFフレーム選択 ➔ p.81
- ・アシスト測距点 ➔ p.80
- ・AFフレーム領域拡大 ➔ p.180

●手動ピント合わせ ➔ p.84

測光

●測光モード ➔ p.95

ドライブ

●ドライブモード ➔ p.85
●連続撮影可能枚数 ➔ p.56

撮影

- ●クリエイティブ全自動 ➔ p.51
- ●プログラムAE ➔ p.88
- ●シャッター優先AE ➔ p.90
- ●絞り優先AE ➔ p.92
- ●マニュアル露出 ➔ p.94
- ●バルブ ➔ p.99
- ●ミラーアップ ➔ p.101
- ●クイック設定画面 ➔ p.38
- ●セルフタイマー ➔ p.86
- ●リモコン ➔ p.102

露出調整

- ●露出補正 ➔ p.96
- ●AEB ➔ p.97
- ●AEロック ➔ p.98
- ●露出設定ステップ ➔ p.174

ストロボ

- ●外部ストロボ ➔ p.103
- ●ストロボ制御 ➔ p.105
- ●ストロボ カスタム機能設定 ➔ p.106

ライブビュー撮影

- ●静止画 ➔ p.108
  - ・AF
    - - クイックモード ➔ p.113
    - - ライブモード ➔ p.115
    - - ライブ顔優先モード ➔ p.116
  - ・手動ピント合わせ ➔ p.119
  - ・露出シミュレーション ➔ p.109
  - ・グリッド ➔ p.111
  - ・静音撮影 ➔ p.120
- ●動画 ➔ p.121

画像再生

- ●撮影後の画像表示時間 ➔ p.145
- ●1枚表示 ➔ p.128
  - ・撮影情報表示 ➔ p.129
- ●動画再生 ➔ p.137
- ●インデックス表示 ➔ p.131
- ●画像送り（ジャンプ表示）➔ p.132
- ●拡大表示 ➔ p.133
- ●手動画像回転 ➔ p.134
- ●自動画像回転 ➔ p.146
- ●自動再生 ➔ p.135
- ●テレビで見る ➔ p.139
- ●プロテクト（保護） ➔ p.141
- ●消去 ➔ p.142

カスタマイズ

- ●カスタム機能（C.Fn） ➔ p.171
- ●マイメニュー ➔ p.186
- ●カメラユーザー設定登録 ➔ p.187

センサークリーニング／ダスト除去

- ●センサークリーニング ➔ p.147
- ●ゴミ消し情報付加 ➔ p.149

ファインダー

- ●視度調整 ➔ p.34
- ●スクリーン交換 ➔ p.184

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の残像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、下記の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

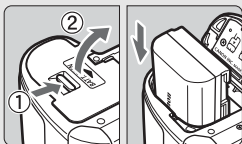
レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

長時間使用時のご注意

連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがありますので、ご注意ください。

すぐ撮影するには

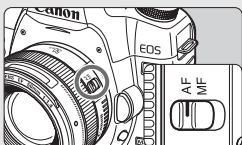
1

電池（バッテリー）を入れる（p.26）

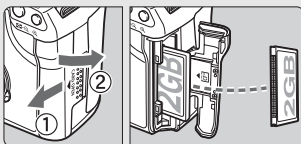
電池の充電方法については24ページを参照してください。

2

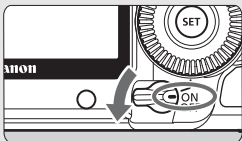
レンズを取り付ける（p.31）

赤い指標に合わせて取り付けます。

3

レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.31）

4

スロットカバーを開け、カードを入れる（p.29）

カードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。

5

電源スイッチを〈ON〉にする（p.27）

6

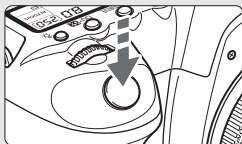
モードダイヤルを〈□〉（全自動）にする（p.48）

撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

7

ピントを合わせる（p.35）

ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

8

撮影する（p.35）

さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

撮影した画像を確認する（p.145）

撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。

〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.128）。

- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.128）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.142）を参照してください。

各部の名称

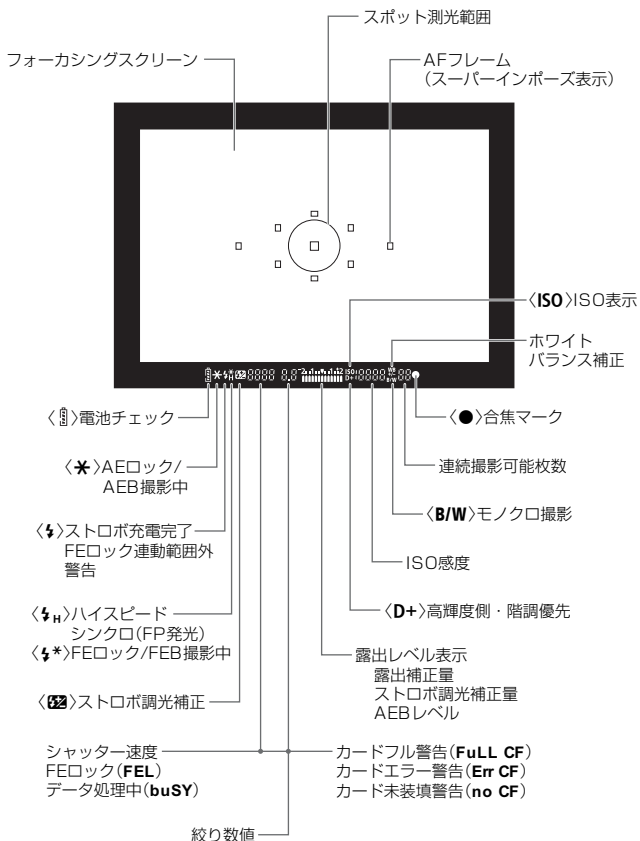
（p.＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

ボディキャップ(p.31)

〈 〉マルチコントローラー(p.36)
視度調整つまみ(p.34)
スピーカー(p.138)
アイカップ(p.100)
ファインダー接眼部
〈 / 〉ライブビュー撮影/イージーダイレクトボタン(p.109 /159、168)
〈MENU〉メニューボタン(p.40)
〈 〉ピクチャースタイル選択ボタン(p.59)
〈INFO.〉インフォ/トリミング枠縦横切り換えボタン(p.112、128、190 / 161)
〈 〉再生ボタン(p.128)
〈 〉消去ボタン(p.142)
拡張システム端子
液晶モニター(p.40、144)
外光センサー(p.144)
三脚ねじ穴
電源/サブ電子ダイヤルスイッチ(p.27)
〈 〉設定/動画撮影ボタン(p.40 / 122)
カードスロット(p.29)
カード取り出しボタン(p.30)
〈AF-ON〉AFスタートボタン(p.35、79、110)
〈 / 〉AEロック/FEロックボタン/インデックス/縮小ボタン(p.98 / 103 / 131 / 133、161)
〈 / 〉AFフレーム選択/拡大ボタン(p.81 / 133、161)
ストラップ取り付け部(p.23)
カードスロットカバー(p.29)
電池室ふた開放レバー(p.26)
電池室ふた(p.26)
アクセスランプ(p.30)
〈 〉サブ電子ダイヤル(p.37)
MENU
INFO.
AF-ON
SET
ON
OFF
Canon
CARD OPEN

表示パネル

状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示

状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

カメラユーザー設定

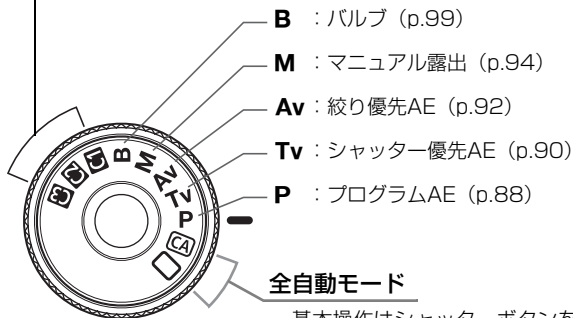
　カメラに設定されているほとんどの内容を、C1、C2、C3に登録することができます（p.187）。

B　：バルブ（p.99）

M　：マニュアル露出（p.94）

Av：絞り優先AE（p.92）

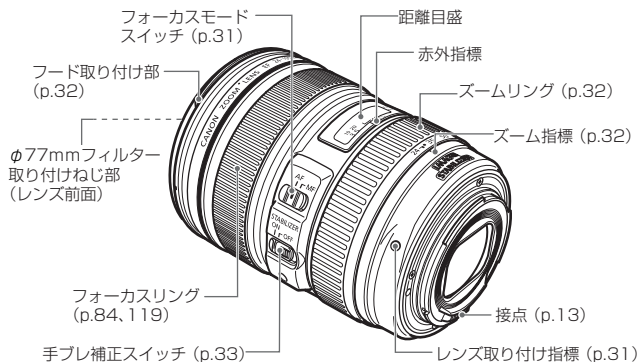
Tv：シャッター優先AE（p.90）

P　：プログラムAE（p.88）

全自動モード

　基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体に応じてカメラまかせの全自動撮影ができます。

□：全自動（p.48）

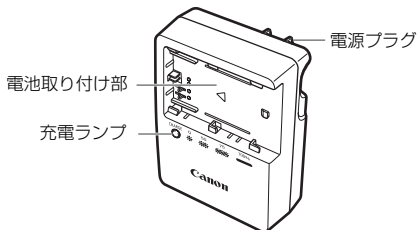
CA：クリエイティブ全自動（p.51）

EF24-105mm F4L IS USM レンズ

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。

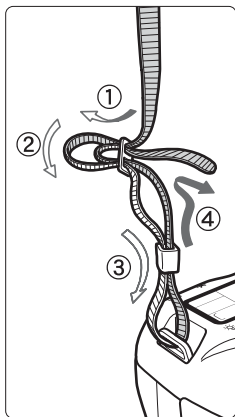
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

バッテリーチャージャー LC-E6

バッテリーパック LP-E6の充電器です（p.24）。

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、有限責任中間法人 JBRC のホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

1

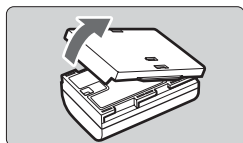
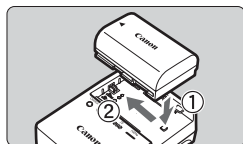
撮影前の準備と操作の基本

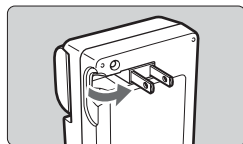
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明します。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方

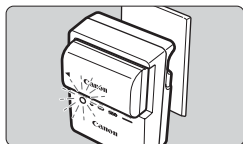
ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています（p.100）。

アイピースカバー

電池を充電する

1 保護カバーを外す

2 電池を取り付ける

- 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。

3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。

4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

<table>
<tr><th rowspan="2">充電状態</th><th colspan="2">充電ランプ</th></tr>
<tr><th>色</th><th>表示</th></tr>
<tr><td>0～50%</td><td rowspan="3">オレンジ</td><td>1回／秒：点滅</td></tr>
<tr><td>50～75%</td><td>2回／秒：点滅</td></tr>
<tr><td>75%以上</td><td>3回／秒：点滅</td></tr>
<tr><td>充電完了</td><td>緑</td><td>点灯</td></tr>
</table>

- **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間30分です。なお、充電時間は、周囲の温度や残容量によって大きく異なります。**
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長く（最長約4時間）になります。

電池と充電器の上手な使い方

● **充電は、使用する当日か前日にする**

充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

● **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

● **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**

充電済みの電池に保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈□〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。

● **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**

電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因になります。保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

● **充電器は海外でも使うことができる**

充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

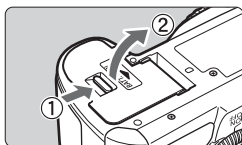
● **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**

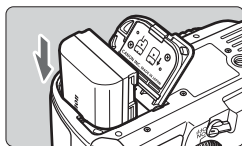
新しい電池をお買い求めください。

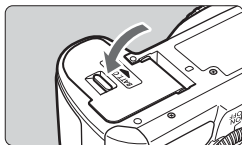
● バッテリーパック LP-E6以外は充電できません。
● バッテリーパック LP-E6は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

電池を入れる／取り出す

入れ方

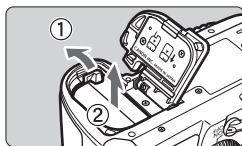
充電したバッテリーパック LP-E6をカメラに入れます。

1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。

2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3 ふたを閉める

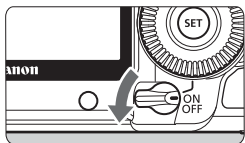
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

バッテリーパック LP-E6以外は使用できません。

取り出し方

ふたを開けて、電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に保護カバーを取り付けてください。

電池室ふたを外すときは、開いた状態から無理に押し開かないでください。
ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。

電源を入れる

〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。
〈ON〉：カメラが作動します。
〈⌐〉：カメラと〈◎〉が作動します（p.37）。

撮像素子の自動清掃について

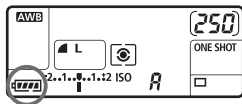
- 電源スイッチを〈ON/⌐〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます。清掃中は、液晶モニターに〈⁺□⁺〉が表示されます。なお、清掃中でもシャッターボタンを半押し（p.35）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON/⌐〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈⁺□⁺〉が表示されないことがありますが故障ではありません。

オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し（p.35）すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、メニュー［**ᛉ˙ オートパワーオフ**］で変更することができます（p.44）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**書き込み中...**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈ON〉または〈⤶〉にしたときに、6段階で表示されます。

表示	残量（%）	状態
	100〜70	十分な残量があります
	69〜50	半分以上の残量があります
	49〜20	残量が半分以下です
	19〜10	残量が少なくなっています
	9〜1	もうすぐ電池切れになります
	0	電池を充電してください

撮影可能枚数の目安

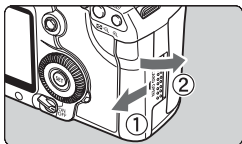
温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	約850枚	約750枚

- 撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

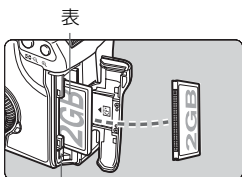
- 実際の撮影条件との違いにより、撮影可能枚数が表記数値よりも少なくなることがあります。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AF（オートフォーカス）のみ行って撮影しない操作を頻繁に行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
- 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの手ブレ補正機能を使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、111ページを参照してください。
- メニュー［**バッテリー情報**］で、電池の状態を詳しく確認することができます（p.192）。
- バッテリーグリップ BG-E6に単3形電池を使用したときは、4段階表示になります（［ / ］は表示されません）。

CFカードを入れる／取り出す

画像を記録するCF（コンパクトフラッシュ）カードには、厚さの異なる2種類のタイプがありますが、このカメラでは、どちらのタイプも使用できます。また、Ultra DMA（UDMA）対応のカードや、ハードディスクタイプのカードも使用できます。

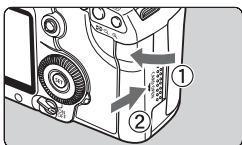
入れ方

1 カバーを開ける

● カバーを矢印の方向にスライドさせてから、開きます。

表

カード取り出しボタン

2 カードを入れる

● **図のようにカードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。**
カードを入れる向きを間違えると、カメラが壊れます。

➡ カード取り出しボタンがせり出します。

撮影可能枚数

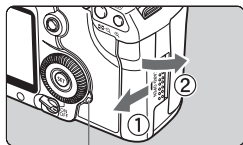
3 カバーを閉める

● カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。

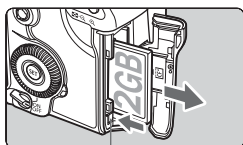
➡ 電源スイッチを〈ON〉または〈⤶〉にすると、表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

● 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。

● メニュー［◘˙ カードなしレリーズ］を［しない］に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.200）。

取り出し方

アクセスランプ

1 カバーを開ける

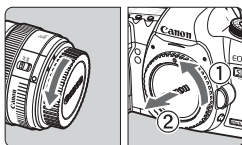
- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**

カード取り出しボタン

2 カードを取り出す

- カード取り出しボタンを押し込みます。
- ➡ カードが出てきます。
- カバーを閉じます。

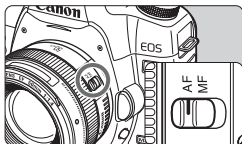
- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また場合により、カードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因になります。**
  - **・カードスロットカバーを開ける**
  - **・電池を取り出す**
  - **・カメラ本体に振動や衝撃を与える**
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から撮影されないことがあります（p.74）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カードを初期化してください。正常な状態に戻ることがあります。
- ハードディスクタイプのカードを手で持つときは、必ずカードの側面を持ってください。平面部分を持つとカードが壊れることがあります。また、振動や衝撃に弱いため、特に記録/再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、十分に注意してください。

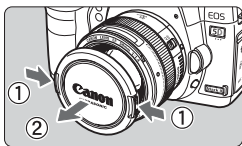
レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方

1 キャップを外す

● レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2 レンズを取り付ける

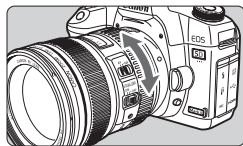
● レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉（自動ピント合わせ）にする

● 〈MF〉（手動ピント合わせ）になっていると自動ピント合わせができません。

4 レンズキャップを外す

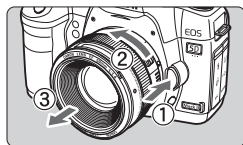
● レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
● EF-Sレンズは使用できません。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

● レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う。
● レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける。
● ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける。

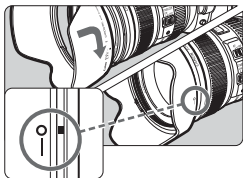
ズーム操作について

ズーム操作は、レンズのズームリングを手で回します。

ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

フードの取り付け方

EF24-105mm F4L IS USMに専用フードEW-83Hを取り付けると、有害な光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズの前面を保護することができます。なお、レンズをバッグなどに収納するときは、逆向きに取り付けることもできます。

1 フードの赤いマークと、レンズ先端の赤い指標を合わせる

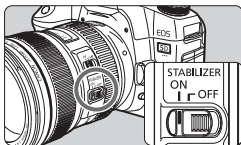
2 図の位置まで回す

- フードを時計方向に回して確実に取り付けます。

- フードが正しく取り付けられていないと、画面の周囲が暗くなることがあります。
- フードの取り付けや、取り外しをするときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。

レンズの手ブレ補正機能について

ISレンズに内蔵された手ブレ補正機能を使用すると、撮影するときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正して、鮮明な写真を撮ることができます。EF24-105mm F4L IS USMレンズを例にして、手ブレ補正機能の説明をします。

＊ ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。

1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

● カメラの電源スイッチも〈ON〉にしておきます。

2 シャッターボタンを半押しする

➡ 手ブレ補正機能が働きます。

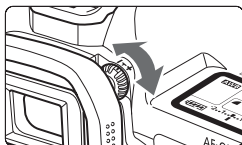
3 撮影する

● ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- EF24-105mm F4L IS USMで流し撮りを行うと、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

- 手ブレ補正機能は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉〈**MF**〉どちらのときでも働きます。
- 三脚使用時は、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすると、電池の消耗を防ぐことができます。
- 一脚を使用した撮影でも、手ブレ補正効果が得られます。

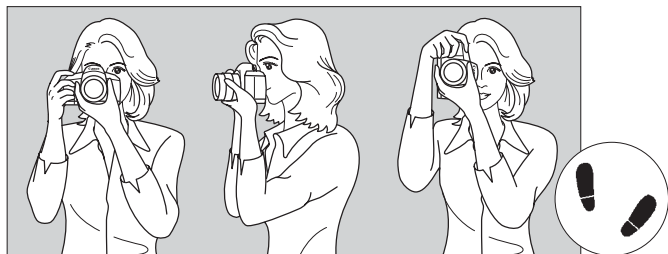
撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する

視度調整つまみを回す

● ファインダー内のAFフレーム（9つの四角い枠）が最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。

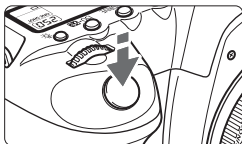
視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）の使用をおすすめします。

カメラの構え方

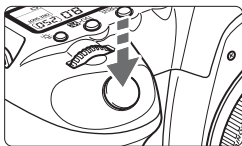
手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

横位置　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
⑥片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、表示パネルとファインダー内に表示されます（⏱4）。

全押し

シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**の撮影モードでは、〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作ができます。
- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

〈メイン電子ダイヤル〉メイン電子ダイヤルによる機能の選択と設定

(1) ボタンを押したあと、〈メイン電子ダイヤル〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（6）で保持されます。その間に〈メイン電子ダイヤル〉を回します。

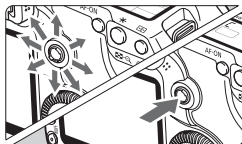
タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 測光モード、AFモード、ISO感度、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈メイン電子ダイヤル〉のみを回す

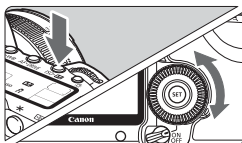
ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈メイン電子ダイヤル〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。

〈マルチコントローラー〉マルチコントローラー操作

〈マルチコントローラー〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。

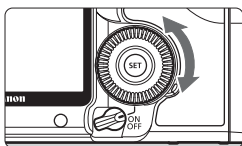
- AF フレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影時におけるAFフレーム/拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動、クイック設定画面の操作などに使用します。
  また、メニューの選択・設定を行うこともできます（［**再生 画像消去**］と［**設定 カード初期化**］を除く）。

◎ サブ電子ダイヤルによる機能の選択と設定

〈◎〉を操作するときは、電源スイッチを〈J〉にしてください。

(1) ボタンを押したあと、〈◎〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈◎〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

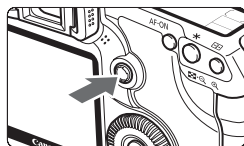
- ホワイトバランス、ドライブモード、ストロボ調光補正、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈◎〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

 （1）の操作は、電源スイッチが〈**ON**〉の位置でも行うことができます。

クイック設定画面の操作

液晶モニターに撮影機能を表示して、直感的な操作で機能の選択／設定を行うことができます。この画面を「クイック設定画面」といいます。

1 クイック設定画面を表示する

- 〈⁜〉をまっすぐに押します。
- ➡ クイック設定画面が表示されます。（⏱10）

□（全自動）

P/Tv/Av/M/B

2 機能を設定する

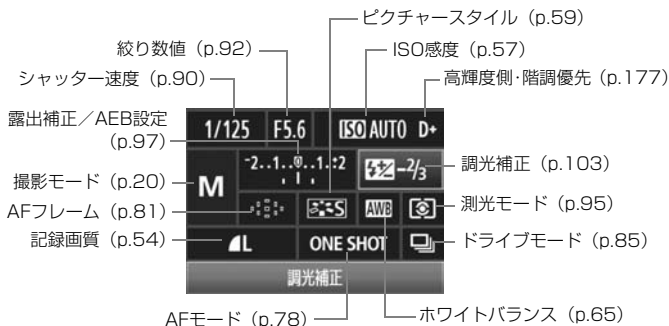
- 〈⁜〉で機能を選びます。
- 〈□〉（全自動）では、ドライブモード（p.85）の一部と記録画質（p.54）を選ぶことができます。
- ➡ 選んだ内容の説明が、画面の下側に表示されます。
- 〈◎〉または〈⚙〉を回して設定を変更します。

3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ➡ 液晶モニターが消灯して、撮影した画像が表示されます。

［C.Fn III -3：AFフレーム選択方法］を［1：マルチコントローラーダイレクト］に設定すると、クイック設定画面を表示することができなくなります（p.179）。

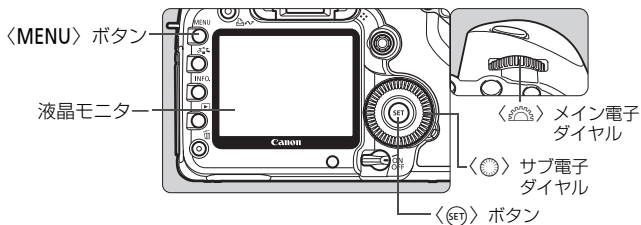
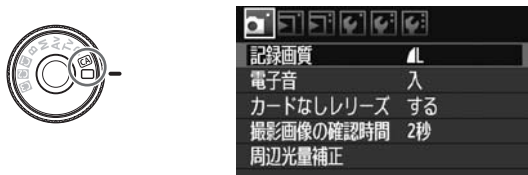
〈CA〉（クリエイティブ全自動）モードについては、51ページを参照してください。

クイック設定画面の内容

各機能の設定画面について

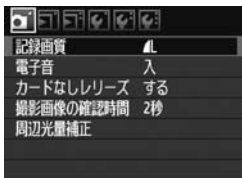
- クイック設定画面で機能を選び、〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます（シャッター速度と絞り数値を除く）。
- 〈◎〉または〈ダイヤル〉を回して設定を変更します。
- 〈SET〉を押すと、クイック設定画面に戻ります。

〈D+〉高輝度側・階調優先は、クイック設定画面からは設定できません。

MENU メニュー機能の操作と設定

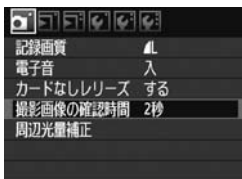
このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。メニュー機能の操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈メイン電子ダイヤル〉〈サブ電子ダイヤル〉を使って行います。

全自動（□/CA）モードのメニュー画面

* **［撮影/カスタム機能/★］タブは、全自動モードでは表示されません。**また、全自動モードでは、表示されないメニュー項目があります。

P/Tv/Av/M/Bのメニュー画面

メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

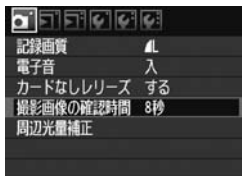
● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

● 〈⌒〉を回してタブ(系統)を選びます。

3 項目を選ぶ

● 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を選ぶ

● 〈◎〉を回して内容を選びます。
● 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5 内容を設定する

● 〈SET〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

● これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
● 〈✣〉でメニュー機能の設定を行うこともできます。(［▶ 画像消去］、［🔧 カード初期化］を除く)

使い始める前の準備

MENU 表示言語を設定する

1 ［言語］を選ぶ

- ［ⵖ］タブの［**言語**］（上から3番目の項目）を選び、〈SET〉を押します。

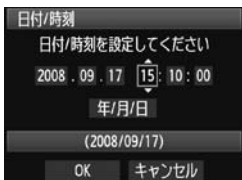
2 言語を設定する

- 〈◎〉または〈⚙〉を回して言語を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示言語が切り換わります。

MENU 日付／時刻を確認する

日付と時刻を確認し、合っていないときは、次の手順で設定します。

1 ［日付/時刻］を選ぶ

- ［ⵖ］タブの［**日付/時刻**］を選び、〈SET〉を押します。

2 日付/時刻／日付表示順序を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選びます。
- 〈SET〉を押して、⇕ の状態にします。
- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します（□ の状態に戻ります）。

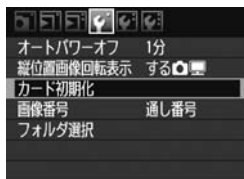
3 設定を終了する

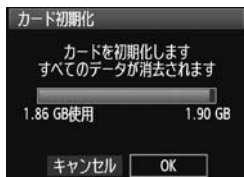
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 日付/時刻が設定され、メニューに戻ります。

撮影した画像には、日付/時刻が一緒に記録されますので、正しく設定してください。

MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1 ［カード初期化］を選ぶ

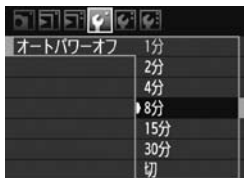
● ［🔧］タブの［**カード初期化**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［OK］を選ぶ

● 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
➡ カードが初期化されます。
➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

電源が自動的に切れるまでの時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、[切] に設定します。電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと、電源が入ります。

1 [オートパワーオフ] を選ぶ

- [ ] タブの [オートパワーオフ] を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

- 〈 〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

[切] に設定しても、節電のため約30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

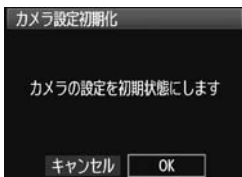
MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1 ［設定解除］を選ぶ

- ［🔧:］タブの［**設定解除**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**カメラ設定初期化**］を選び、〈SET〉を押します。

3 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ ［**カメラ設定初期化**］を行うと、カメラの設定が次のようになります。

撮影機能関係

AFモード	ワンショットAF
AFフレーム選択	自動選択
測光モード	◉（評価測光）
ドライブモード	□（1枚撮影）
露出補正	0（ゼロ）
AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
ライブビュー撮影	しない
カスタム機能	そのまま

画像記録関係

記録画質	◢L
ISO感度	Auto
ピクチャースタイル	スタンダード
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB（オート）
WB補正	解除
WB-BKT	解除
周辺光量補正	する／ 登録レンズ保持
画像番号	通し番号
自動クリーニング	する
ダストデリートデータ	消去

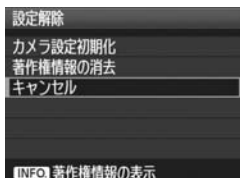
カメラ設定関係

オートパワーオフ	1分
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ハイライト警告	しない
AFフレーム表示	しない
ヒストグラム	輝度

カメラ設定関係

での画像送り	10枚
縦位置画像回転表示	する
液晶の明るさ	自動：標準
日付/時刻	そのまま
言語	そのまま
ビデオ出力方式	そのまま
カメラユーザー設定	そのまま
マイメニューの内容	そのまま

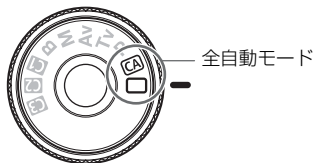
著作権情報について

付属ソフトウェアのEOS Utilityで著作権情報の設定を行うと、その内容がExif情報として画像に付加されます。カメラでは、著作権情報の確認と消去のみ行うことができます。なお、著作権情報がカメラに登録されていないときは、灰色の表示で操作できません。

- ［**設定解除**］画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、著作権情報が表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと［**設定解除**］画面に戻ります。
- 著作権情報の消去は、［**設定解除**］画面の［**著作権情報の消去**］で行います。

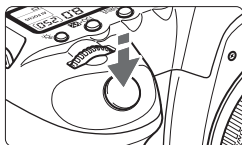
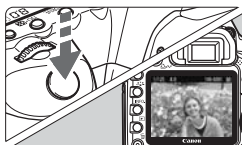
2

かんたん撮影

この章では、モードダイヤルの全自動（□/CA）モードを使って上手に撮影する方法を説明しています。

全自動（□/CA）モードでは、シャッターボタンを押すだけでカメラまかせの撮影ができるよう、各種機能が自動設定されます（p.198）。また、誤操作による失敗を防ぐため、主要な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。

オートライティングオプティマイザ機能について

全自動（□/CA）モードでは、撮影結果に応じて、画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正するオートライティングオプティマイザ機能が働きます。**P**/**Tv**/**Av**モードでも初期状態で機能します（p.177）。

□ 全自動で撮る

1 **モードダイヤルを〈□〉にする**

AFフレーム

2 **被写体（写したいもの）にAFフレームを合わせる**

● すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントを合わせます。
● 中央のAFフレームを被写体に重ね合わせるとピントが合いやすくなります。

合焦マーク

3 **ピントを合わせる**

● シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。

4 **撮影する**

● シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。

? こんなときは

● 合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない

明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.84）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● 複数のAFフレームが同時に光る

赤く光ったすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも光っているときは、そのまま撮影してください。

● 電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。電子音が鳴っている状態でシャッターボタンを全押しすると、動いている被写体にピントの合った写真を撮ることができます。

● シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっていると、ピント合わせが行われません。〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● シャッター速度（数字）が点滅している

光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、別売のEXシリーズスピードライト（p.103）を使用して撮影してください。

● 外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった

レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られます。写したいものが近くにある場合は、フードを取り外してストロボ撮影してください。

□ 全自動を使いこなす

構図を変えて撮影する

場面によっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈□〉(全自動)では、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。

動いているものを撮影する

〈□〉(全自動)では、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く(距離が変わる)と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能(AIサーボAF)が働きます。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

〈CA〉クリエイティブ全自動で撮る

〈□〉全自動モードは、すべてカメラまかせの撮影ですが、〈CA〉クリエイティブ全自動モードでは、写真の明るさや、ピントが合う範囲、写真の色あい（ピクチャースタイル）などを、わかりやすい操作で簡単に調整することができます。なお、初期状態の設定は、〈□〉（全自動）と同じです。

＊ CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。

1 モードダイヤルを〈CA〉にする

➡ 液晶モニターに、クリエイティブ全自動の画面が表示されます。

2 〈⊕〉をまっすぐに押す

➡ 〈⊕〉で機能を選ぶことができるようになります。（⏱10）

● 次ページ①～⑤の機能を選ぶことができます。

3 機能を設定する

● 〈⊕〉で機能を選びます。

➡ 選んだ内容の説明が、画面の下側に表示されます。

● 〈◎〉または〈⚙〉を回して設定を変更します。

● 〈⊕〉をまっすぐに押すと、手順2の画面に戻ります。

4 撮影する

● 撮影中は、液晶モニターが消灯します。

撮影モードを切り換えたり、電源スイッチを切ると、設定した内容は初期状態に戻ります。ただし、記録画質、およびセルフタイマー／リモコンの設定はそのまま保持されます。

① 背景をぼかす／くっきりさせる

カーソルを左に動かして撮影すると、被写体の背景がぼけた写真になります。右に動かして撮影すると、被写体の背景がくっきりした写真になります。

② 写真を暗くする／明るくする

カーソルを左に動かして撮影すると、暗い写真になります。右に動かして撮影すると、明るい写真になります。

③ ピクチャースタイル

4種類のピクチャースタイル（p.59、60）を選ぶことができます。

④ 1枚撮影／連続撮影／セルフタイマー /リモコン撮影

〈連続撮影〉を選ぶと、1秒間に最高約3.9枚の連続撮影をすることができます。〈セルフタイマー〉を選んだときは、86ページ『セルフタイマー撮影』の（ノート）、102ページの『リモコン撮影』を参考にして撮影します。

⑤ 記録画質

〈SET〉を押すと、記録画質設定画面が表示されます。54ページの『記録画質を設定する』を参考にして設定します。設定後、〈SET〉を押すと前ページの手順2の画面に戻ります。

外部ストロボ使用時は、①は設定できません。

3

画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、色空間など、画像に関係する機能設定について説明します。

- 全自動（□/CA）モードでは、この章の中の、記録画質の設定、レンズの周辺光量補正の設定、フォルダの作成と選択、画像番号の付け方の設定のみ、行うことができます。
- ページタイトル右の 応用 は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と、その画質を選ぶことができます。JPEGの記録画質は、**◢L**、**▟L**、**◢M**、**▟M**、**◢S**、**▟S**の6種類です。RAWの記録画質は、**RAW**、**sRAW1**、**sRAW2**の3種類で、撮影後に付属のソフトウェアで現像処理を行います（p.56）。

1 ［記録画質］を選ぶ

- ［撮影1］タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。

2 記録画質を設定する

- RAWの記録画質は〈メイン電子ダイヤル〉、JPEGの記録画質は〈サブ電子ダイヤル〉を回して選びます。
- 画面の数字「***M（百万画素）****×****」は記録画素数、［***］は撮影可能枚数（999まで表示）を示しています。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

記録画質の設定例

◢Lのみ

RAWのみ

RAW＋**◢L**

sRAW2＋**◢M**

* RAWとJPEGの設定を、両方［－］にしたときは、**◢L**に設定されます。

記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質		記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
JPEG	◢L	約2100万（21.0M）	A2以上	6.1	310	78（310）
	▟L			3.0	610	610（610）
	◢M	約1110万（11.1M）	A3程度	3.6	510	330（510）
	▟M			1.9	990	990（990）
	◢S	約520万（5.2M）	A4程度	2.1	910	910（910）
	▟S			1.0	1680	1680（1680）
RAW	RAW	約2100万（21.0M）	A2以上	25.8	72	13（14）
	sRAW1	約1000万（9.9M）	A3程度	14.8	120	15（15）
	sRAW2	約520万（5.2M）	A4程度	10.8	170	20（20）
RAW＋JPEG	RAW ◢L	約2100万 約2100万	A2以上 A2以上	25.8+6.1	57	8（8）
	sRAW1 ◢L	約1000万 約2100万	A3程度 A2以上	14.8+6.1	89	8（8）
	sRAW2 ◢L	約520万 約2100万	A4程度 A2以上	10.8+6.1	110	8（8）

- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準2GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 連続撮影可能枚数の（ ）内の数値は、当社試験基準Ultra DMA（UDMA）対応2GBカード使用時の枚数です。

- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で、選んだ記録画質の画像がカードに同時に記録されます。2つの画像は、同じフォルダに同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で保存されます。
- **sRAW1**、**sRAW2**は、どちらを選んでも表示パネルでは **sRAW** と表示されます。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、**sRAW1**（スモールロウ1）、**sRAW2**（スモールロウ2）、JPEG（ジェイペグ）、◢（ファイン）、▟（ノーマル）、**L**（ラージ）、**M**（ミドル）、**S**（スモール）です。

RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生データ」です。RAW、SRAW1、SRAW2から選ぶことができます。本文中の「RAW」の表記は、RAW、SRAW1、SRAW2の3つを示しています。

RAW画像は、付属のソフトウェアで、使用目的に応じたさまざまな画像調整を行うことができます。また、ソフトウェアの現像処理機能により、調整結果を反映した、使用目的に最適なJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

［C.Fn II -2：高感度撮影時のノイズ低減］とRAW画像、RAW+JPEG画像について

記録された画像には［C.Fn II -2：高感度撮影時のノイズ低減］（p.176）の設定（標準／弱め／強め／しない）が反映されていますが、カメラによる再生（液晶モニター表示とテレビ表示）、ダイレクトプリント（RAW+L/Lを除く）では、ノイズ低減されていない画像が使用されます（ノイズが目立つ場合があります）。ノイズ低減効果の確認とノイズ低減画像の印刷は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行ってください。

市販のソフトウェアでは、撮影したRAW画像を表示できないことがあります。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）について

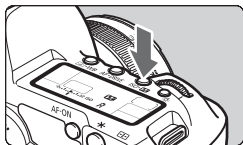
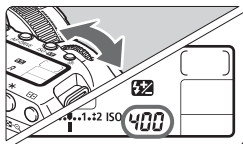
前ページの「連続撮影可能枚数」は、初期化された2GBのカードを使用したときに、連続して何枚撮影できるかを示しています。

ファインダー内の右下の数字で、連続撮影できる枚数の目安（99枚以上のときは99）が確認できます。

- 連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。
- [C.Fn II -2：高感度撮影時のノイズ低減]を[2：強め]に設定すると、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります（p.176）。

連続撮影可能枚数が、ファインダー内で「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていきます。撮影を中断すると、数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、55ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

ISO：ISO感度を設定する 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影する場所の明るさに応じて設定します。全自動（□/CA）モードでは、ISO感度が自動設定されます（p.58）。

1 **〈ISO・〉ボタンを押す**（6）

2 **ISO感度を設定する**

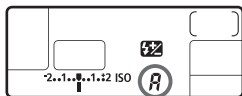
- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈〉を回します。
- ISO100～6400まで、1/3段ステップで設定することができます。
- 「**A**」を選ぶと、ISO感度が自動設定されます（p.58）。

ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
L、100～200	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります。
400～800	曇り空、夕方	
1600～6400、H1、H2	暗い屋内、夜景	

- ［C.Fn II -3：高輝度側・階調優先］を［1：する］に設定すると、ISO感度の設定範囲がISO200～6400になります（p.177）。
- ISO感度を高くしたり、高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、横縞状のノイズが目立つことがあります。

［C.Fn I -3：ISO感度拡張］を［1：する］に設定すると、「**L**」（ISO50相当）、「**H1**」（ISO12800相当）、「**H2**」（ISO25600相当）も選択できるようになります（p.174）。

ISO感度の自動設定「A」（Auto）について

ISO感度の設定が「**A**」のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が表示されます。ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

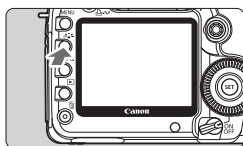
撮影モード	ISO感度設定
□/CA/**P**/**Tv**/**Av**	ISO100～3200
M/**B**	ISO400固定
ストロボ撮影時	ISO400固定*

* 日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100

ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

〈□〉（全自動）では、ピクチャースタイルの選択はできません。

1 〈ピクチャースタイル〉ボタンを押す

- 撮影準備状態で〈ピクチャースタイル〉ボタンを押します。
- ➡ ピクチャースタイル画面が表示されます。

2 スタイルを選ぶ

- 〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回してスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイルが設定され、撮影準備状態に戻ります。

メニュー［ピクチャースタイル］から設定することもできます。

各ピクチャースタイルの画像特性について

S スタンダード（CA：スタンダード）

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。〈□〉（全自動）のときに自動設定されます。

P ポートレート（CA：肌色がきれい）

肌がきれいで、ややくっきりした写真になります。女性や子どもをアップで写すときに効果的です。

61ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

L 風景（CA：青空や緑が鮮やか）

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ（CA：モノクロ画像）

白黒写真になります。

JPEGの記録画質で撮影した画像は、カラー写真に戻すことができません。［**モノクロ**］に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。なお、［**モノクロ**］設定時は、ファインダー内と表示パネルに〈**B/W**〉が表示されます。

ユーザー設定1～3

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.63）。登録されていないときは、［**スタンダード**］の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号について

スタイル選択画面の上にある記号は、［**シャープネス**］［**コントラスト**］などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている［**シャープネス**］［**コントラスト**］などの設定値を示しています。

記号の意味

	シャープネス
	コントラスト
	色の濃さ
	色あい
	フィルター効果（モノクロ）
	調色（モノクロ）

ピクチャースタイルを調整する 応用

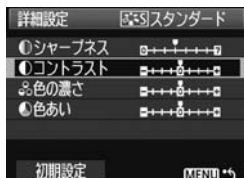
それぞれのピクチャースタイルは、好みに合わせて設定内容（［**シャープネス**］［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。［**モノクロ**］の調整については、次ページを参照してください。

1 〈ピクチャースタイル〉ボタンを押す

2 スタイルを選ぶ

- 〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回してスタイルを選び、〈INFO.〉ボタンを押します。

3 項目を選ぶ

- 〈サブ電子ダイヤル〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を設定する

- 〈サブ電子ダイヤル〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

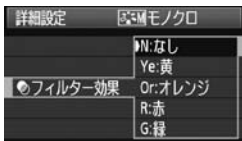
設定内容とその効果

シャープネス	0：輪郭強調・控えめ	+7：輪郭強調・強め
コントラスト	-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
色の濃さ	-4：薄い	+4：濃い
色あい	-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

- 手順３で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、調整したスタイルを選択してから撮影します。

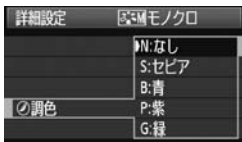
モノクロの調整

前のページで説明した［**シャープネス**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

フィルター効果を使うと､同じモノクロ画像でも､白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N ：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R ：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G ：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

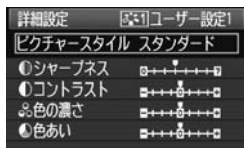
ピクチャースタイルを登録する 応用

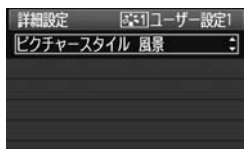
［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みに合わせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

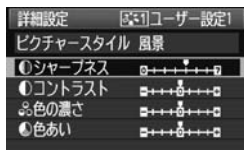
シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。また、付属のソフトウェアからカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

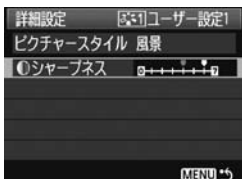
1 〈 〉ボタンを押す

2 ［ユーザー設定］を選ぶ

- 〈 〉または〈 〉を回して［**ユーザー設定＊**］を選び、〈INFO.〉ボタンを押します。

3 〈SET〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

4 基本にするスタイルを選ぶ

- 〈 〉を回して基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- 付属のソフトウェアから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

5 項目を選ぶ

- ［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

6 内容を設定する

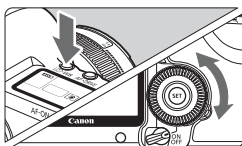
- 〈◎〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
  詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』(p.61、62) を参照してください。

- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ [**ユーザー設定＊**] の右に、基本にしたスタイルが表示されます。

[**ユーザー設定＊**] にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。

登録したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、[**ユーザー設定＊**] を選択してから撮影します。

WB：ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスが得られます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。全自動（□/CA）モードでは〈AWB〉に自動設定されます。

1 〈◉・WB〉ボタンを押す（⏱6）

2 ホワイトバランスを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

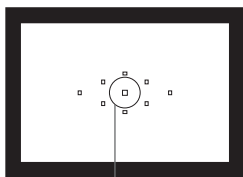
表示	モード	色温度（約・K：ケルビン）
AWB	オート	3000～7000
☀	太陽光	5200
日陰	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
白熱電球	白熱電球	3200
白色蛍光灯	白色蛍光灯	4000
ϟ	ストロボ使用	6000
マニュアル	マニュアル（p.66）	2000～10000
K	色温度（p.67）	2500～10000

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、色の基準となる白を決め、白を基準に色の補正が行われます。これにより、自然な色あいで撮影できます。

メニュー［📷 ホワイトバランス］から設定することもできます。

マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

スポット測光範囲

1 白い被写体を撮影する

- スポット測光範囲の領域全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスの設定は、どれでも構いません。

2 ［MWB画像選択］を選ぶ

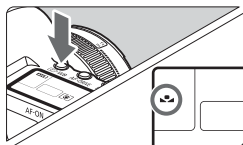
- ［ ］タブの［MWB画像選択］を選び、〈SET〉を押します。

➡ MWB画像選択画面が表示されます。

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 〈 〉または〈 〉を回して手順 1 で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。

➡ 表示されるメッセージ画面で［OK］を選ぶとデータが取り込まれます。

4 〈 ・WB〉ボタンを押す（ 6）

- メニューを終了してから、〈 ・WB〉ボタンを押します。

5 マニュアルWBを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈 〉を回して、〈 〉を選びます。

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像（p.60）は、手順3で選択できません。

- 白い被写体の代わりに18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
- 付属のソフトウェアから登録するカスタムホワイトバランスは、〈 〉に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

K 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。

1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［ ］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈SET〉を押します。

2 色温度を設定する

- 〈 〉を回して［K］を選びます。
- 〈 〉を回して色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、2500～10000K（100Kステップ）です。

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてホワイトバランス補正（マゼンタ、またはグリーン寄り）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度数値を〈K〉に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

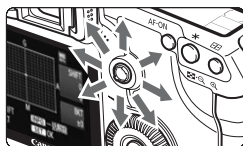
WB+/- ホワイトバランスを補正する 応用

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

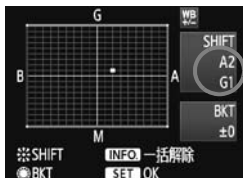
特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

ホワイトバランス補正

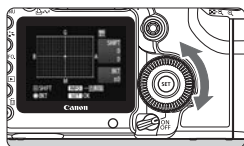
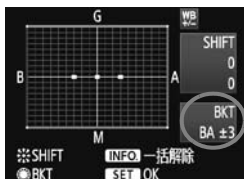
1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

- [○:] タブの [WB補正/BKT設定] を選び、〈SET〉を押します。

2 ホワイトバランスを補正する

- 〈※〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと [WB補正/BKT設定] の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

設定例：A2, G1

- WB補正中は、ファインダー内と表示パネルに〈WB+/-〉が表示されます。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。これをホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。

B/A方向±3段のとき

補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと［WB補正/BKT設定］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

記録される順番について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

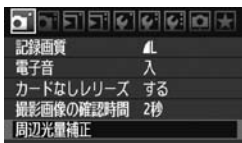
- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。また、表示パネルのホワイトバランスマークが点滅します。
- ホワイトバランス補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影との組み合わせでは、合計9枚の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

MENU レンズの周辺光量を補正する

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を、「周辺光量の低下」といいますが、この現象を補正することができます。JPEG画像は、撮影時に補正されます。RAW画像は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで補正します。

初期状態では、補正［**する**］に設定されています。

1 ［周辺光量補正］を選ぶ

● ［撮影1］タブの［**周辺光量補正**］を選び、〈SET〉を押します。

周辺光量補正
使用レンズ
EF50mm f/1.4 USM
補正データあり
補正
する
しない

2 補正内容を設定する

● 表示される画面で、装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。

● ［**補正データなし**］が表示されているときは、次ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

● 〈◎〉を回して補正［**する**］を選び、〈SET〉を押します。

3 撮影する

● 周辺光量が補正された画像が記録されます。

補正する

補正しない

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、周辺光量補正を行うためのデータがレンズ約25本分登録されています。手順2で補正［**する**］を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量が補正されます。

付属ソフトウェアのEOS Utilityを使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）のEOS Utility使用説明書を参照してください。

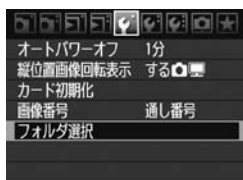
- 撮影したJPEG画像を、後から補正することはできません。
- 撮影条件により、画像周辺部にノイズが発生することがあります。
- 他社製のレンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。

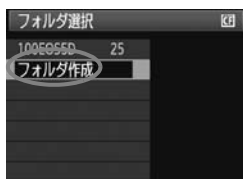
- エクステンダー装着時も周辺光量補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。
- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- 距離情報を持たないレンズでは、補正量が少なくなります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

1 ［フォルダ選択］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［フォルダ作成］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**フォルダ作成**］を選び、〈SET〉を押します。

3 フォルダを作成する

- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 番号が1つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択

- フォルダ選択画面が表示された状態で、〈◎〉を回してフォルダを選び、〈SET〉を押します。

➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。

- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

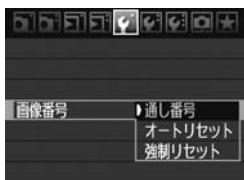
フォルダ名は、「**100EOS5D**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.75）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときも、カメラがフォルダを認識できません。

MENU 画像番号の付け方を設定する

画像番号は、フィルムのコマ番号に相当するもので、撮影した順に0001～9999の番号が付けられて、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

画像番号は、パソコンでは IMG_0001.JPG というような形で表示されます。

1 ［画像番号］を選ぶ

- ［ツール］タブの［**画像番号**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像番号の付け方を選ぶ

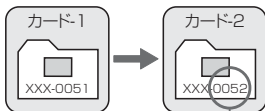
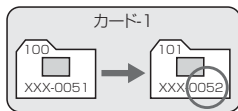
- 〈ダイヤル〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

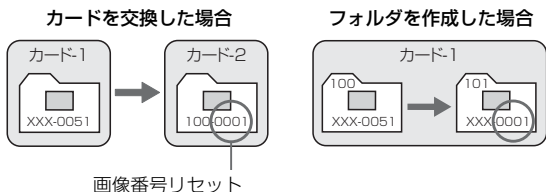
カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

フォルダを作成した場合

オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行って撮影すると、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります。

フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

ファイル名の先頭は、JPEG画像、RAW画像はともに「IMG_」、動画は「MVI_」になります。拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」になります。

MENU 色空間を設定する 応用

色空間とは、再現できる色の範囲（色域特性）のことです。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。

全自動（□/CA）モードでは、sRGBに自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

- ［◘ᶦ］タブの［色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

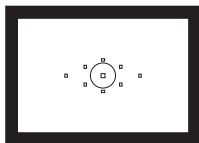
- ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した画像は、ファイル名が「_MG_」（先頭文字がアンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

4

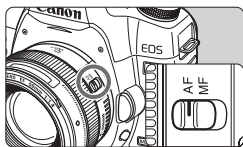
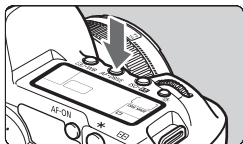
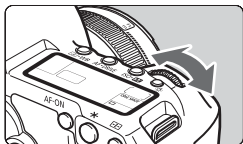
AF／ドライブの設定

ファインダー内には、9つのAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを任意に選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。

また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

- ページタイトル右の 応用 は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。
- 全自動（□/CA）モードでは、AFモード、AFフレーム、ドライブモードが自動設定されます。

〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

AF: AFモードの選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、全自動（□/CA）モードでは、「AIフォーカスAF」に自動設定されます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）

3 AFモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

ONE SHOT：ワンショットAF
AI FOCUS：AIフォーカスAF
AI SERVO：AIサーボAF

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

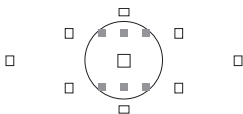
止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが赤く光り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B** の撮影モードでは、〈AF-ON〉ボタンでもAFを行うことができます。

- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.84）を参照してください。
- メニュー［**電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに、合焦音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B** の撮影モードでは、〈AF-ON〉ボタンでもAFを行うことができます。

- AF フレーム選択（p.81）が、自動選択のときは、初めに中央の AF フレームで被写体をとらえます。スポット測光範囲の内側には、AFフレーム表示はありませんが、AIサーボAF用に6つのアシスト（補助）測距点が配置されています（図の■部分）。そのため、AFを行っているときに被写体が中央のAFフレームから少し外れても、継続してピント合わせが行われます。また、被写体が中央のAFフレームから大きく外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。
- AFフレームを任意選択しているときは、選択したAFフレームでAIサーボAFが行われます。

AIサーボAFでは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF

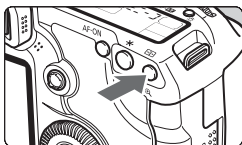
被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

- ワンショット AF で被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴ります。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。

AFフレームの選択

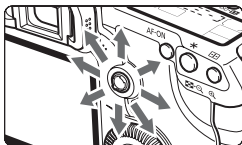
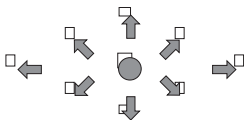
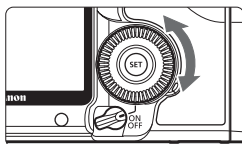
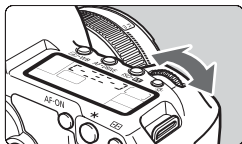
9点のAFフレームの中から、ピント合わせに使うAFフレームを選びます。9点の中から任意の1点を自分で選ぶことを「任意選択」、9点の中からカメラが自動的にピント合わせの位置を選ぶようにすることを「自動選択」といいます。

なお、全自動（□/CA）モードでは、AFフレーム自動選択に自動設定されますので、AFフレームの任意選択はできません。

1 〈〉ボタンを押す（6）

➡ 現在選択されている AF フレームが、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

2 AFフレームを選択する

● 〈〉を操作して選択する方法と、〈〉または〈〉を回して選択する方法があります。

マルチコントローラーによる選択

● 〈〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。
● 〈〉をまっすぐに押すと、中央のAFフレームが選択されます。
● 同じ方向に押すと、任意選択と自動選択が交互に切り換わります。
● すべての AF フレームが点灯したときが自動選択です。

電子ダイヤルによる選択

- 〈 〉または〈 〉を回すと、回した方向のAFフレームが選択されます。
- すべての AF フレームが点灯したときが自動選択です。

- 表示パネルを見ながらAFフレームを選択するときは、次の図を参考にしてください。

  自動選択[-:::-]、中央[-]、右[-]、上[ˉ]
- EOS 用外部ストロボ使用時に AF 補助光でピントが合わないときは、中央のAFフレームを選択してください。

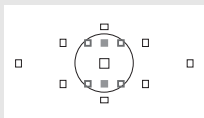
使用レンズの明るさとAF測距について

F5.6より明るいレンズ使用時

中央のAFフレームで十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。残る8点のAFフレームでは、横線検出、または縦線検出によるAF測距になります。

F2.8より明るいレンズ使用時

中央のAFフレームで、より高精度な十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。中央のAFフレームでは、他のAFフレームの約2倍の敏感度で縦横線検出が行われます。残る８点のAFフレームでは、横線検出、または縦線検出によるAF測距になります。

* EF28-80mm F2.8-4L USM、EF50mm F2.5コンパクトマクロを除く

スポット測光範囲の内側に配置された、AFフレーム表示のないAIサーボAF用のアシスト（補助）測距点では、次のようにAF測距が行われます。

■：中央AFフレームと同じF2.8/F5.6レンズ対応の縦線検出

□：F5.6レンズ対応の横線検出

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない(合焦マーク〈●〉が点滅する)ことがあります。

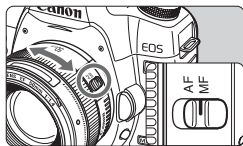
ピントが合いにくい被写体

- 明暗差(コントラスト)が極端に低い被写体
  (例:青空、単色の平面など)
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
  (例:反射光の強い車のボディ)
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合(例:おりの中の動物)
- 繰り返し模様の被写体
  (例:ビルの窓やパソコンのキーボードなど)

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

(1) ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する(p.50)。

(2) レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う。

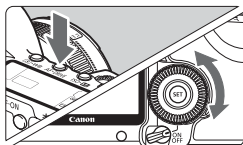
MF: 手動ピント合わせ(マニュアルフォーカス)

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

2 ピントを合わせる

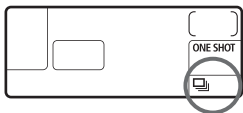
- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームと合焦マーク〈●〉が点灯します。

ドライブモードの選択 応用

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。〈□〉（全自動）では、1枚撮影に自動設定されます。

1 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（6）

2 ドライブモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

□ ：**1枚撮影**
シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

□ ：**連続撮影**（最高約3.9コマ／秒）
シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続して撮影します。

：**セルフタイマー 10秒/リモコン撮影**

2：**セルフタイマー 2秒/リモコン撮影**
セルフタイマー撮影については次ページ、リモコン撮影については102ページを参照してください。

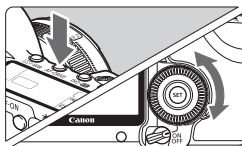
- 連続撮影を行い、内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。カードへの記録経過にともない、次の撮影ができるようになりますので、シャッターボタンを半押しして、ファインダー内右下に表示される連続撮影可能枚数で、そのとき撮影できる枚数を確認してください。

  -2..1..0..1..2 ISO 100 52

  連続撮影可能枚数

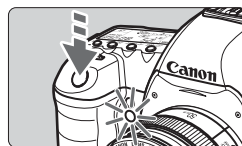
- ファインダー内と表示パネルに「**FuLL CF**」が表示されたときは、必ずアクセスランプの点滅が消えてから、カードを交換してください。
- 電池の残量が少なくなると、連続撮影速度が若干低下します。
- AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が若干低下することがあります。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。〈10秒タイマー〉(10秒タイマー)は、どの撮影モードでも使用できます。

1 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す(6)

2 セルフタイマーを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回して選びます。

セルフタイマー：10秒後に撮影
セルフタイマー2：2秒後に撮影 応用

3 撮影する

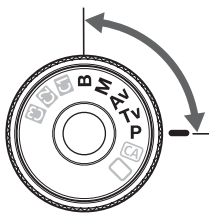
● ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。

➡ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。

➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

● セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し、ピントや露出を確認することをおすすめします(p.128)。
● ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください(p.100)。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。
● 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します(p.50)。
● セルフタイマー撮影を中止するときは、〈AF・DRIVE〉ボタンを押します。

5

撮影目的にあわせた応用撮影

P/**Tv**/**Av**/**M**/**B** の撮影モードでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の 応用 は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内に露出値が約4秒間（4）表示されます。
- **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**の撮影モードで設定できる機能は、『撮影機能の組み合わせ一覧』（p.198）を参照してください。

あらかじめ電源スイッチを〈 〉にしてください。

P: プログラムAE撮影

　被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 ピントを合わせる

● ファインダーをのぞいて、選択した AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

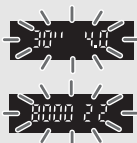
➡ ピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが赤く光り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF+AFフレーム自動選択時）。

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

3 表示を確認する

● シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈P〉と〈□〉（全自動）の違いについて

〈□〉では、失敗を防ぐために、AFモードやドライブモード、測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈**P**〉では、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AFモードやドライブモードなどの機能は自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈〉を回します。
- プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

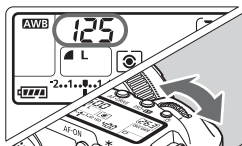
Tv：シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

動きを止めた写真
（速いシャッター速度）

流動感のある写真
（遅いシャッター速度）

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

2 シャッター速度を設定する

● 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。

➡ 絞り数値が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

● 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

Av：絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略で開口量のことです。

背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値）

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値）

1 モードダイヤルを〈**Av**〉にする

2 絞り数値を設定する

● 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回します。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。

➡ シャッター速度が自動的に決まります。

30 16 -2..1..|..1..2 ISO 400 5.6●

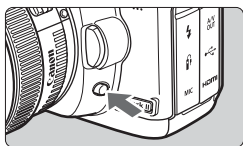
4 表示を確認して撮影する

● シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。

- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さく（絞りを開いて）するか、ISO感度を上げます。
- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きく（絞りを閉じて）するか、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示

数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する 応用

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、ピントの合う奥行き（被写界深度）をファインダーで確認できます。

- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーが暗くなります。
- 被写界深度の効果がわかりにくいときは、絞り込みボタンを押したまま〈〉を回してください。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M: 自分で露出を決めて撮る

自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。
＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈**M**〉にする

2 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈 〉を回して設定します。
- 絞り数値は、電源スイッチを〈 〉にして、〈 〉を回して設定します。

3 ピントを合わせる

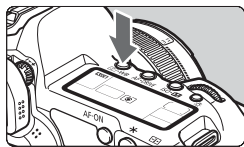
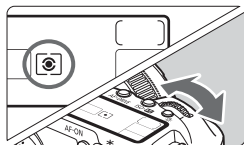
- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈 〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

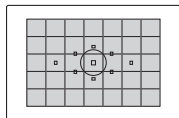
4 露出を決める

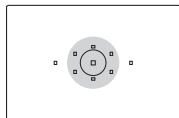
- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

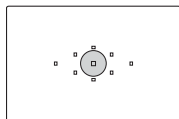
5 撮影する

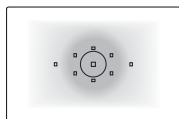
[◉] 測光モードの選択 応用

被写体の明るさを測る機能の特性を4種類の中から選ぶことができます。全自動（□/CA）モードでは、評価測光に自動設定されます。

1 〈◉・WB〉ボタンを押す（⏱6）

2 測光モードを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回します。

[◉] 評価測光

逆光撮影を含む一般的な人物撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

[○] 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。ファインダー中央部の約8%の範囲を測光します。

[•] スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約3.5%を測光します。

[ ] 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することができます。補正できる範囲は、1/3段ステップで±2段です。

1 モードダイヤルを〈P/Tv/Av〉のいずれかにする

2 露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

3 補正量を設定する

- 電源スイッチを〈⤶〉にして、ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。
- 〈◎〉の操作はシャッターボタン半押し中か、半押し後のタイマー（⏱4）作動中に行います。
- 露出補正を解除するときは、補正量の設定を〈▼〉の位置に戻します。

4 撮影する

［C.Fn II -4：オートライティングオプティマイザ］（p.177）が、［3：しない］以外に設定されているときは、暗めに露出補正／ストロボ調光補正（p.103、105）を行っても明るく撮影されることがあります。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 不用意に〈◎〉が動いて補正量が変わらないように注意してください。電源スイッチを〈ON〉の位置にすると安全です。
- 露出補正は、メニュー［撮影 露出補正／AEB設定］でも行うことができます（p.97）。

露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

　1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これをAEB撮影といいます。

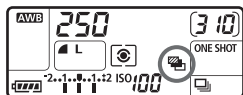
＊AEBは、Auto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

- ［ ］タブの［**露出補正／ AEB 設定**］を選び、〈SET〉を押します。

AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- 〈 〉を回すとAEBレベルが設定できます。
- 〈 〉を回すと露出補正量が設定できます。AEBと併用するときは、露出補正値を中心にAEB撮影されます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。
- ➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈 〉とAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

AEB撮影の解除

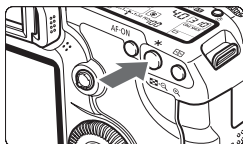
- 手順1、2の操作でAEBレベルの表示を消します。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボの充電完了で自動解除されます。

- ドライブモードが〈□〉のときは、シャッターボタンを3回押して撮影します。〈 〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈 〉〈 2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

✱ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈✱〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

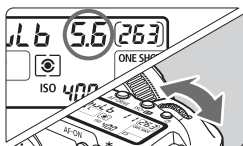
AEロックの効果

測光モード (p.95)	AFフレーム選択（p.81）	
	自動選択	任意選択
◉*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
◎ ⊡ [ ]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

B: 長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを〈B〉にする

2 絞り数値を設定する

● 表示パネルを見ながら〈dial〉または〈dial〉を回します。

3 撮影する

● シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。

➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

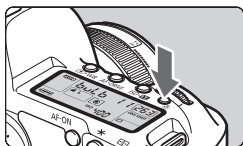
露光経過時間

● 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になることがあります。

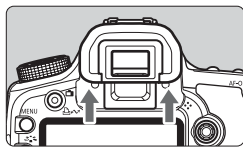
● ［C.Fn II -1：長秒時露光のノイズ低減］を［1：自動］または［2：する］に設定すると、長秒時露光時に発生するノイズを軽減することができます（p.176）。

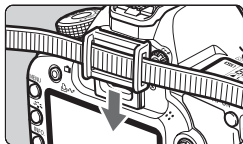
● バルブ撮影を行うときは、リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

● リモコン（別売／ p.102）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。リモコンの送信ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了します。

表示パネルの照明

〈照明〉ボタンを押すたびに、表示パネルの照明が点いたり、消えたりします（6）。バルブ撮影時は、シャッターボタンを全押しすると照明が消えます。

アイピースカバーを併用する

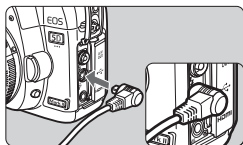
　ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.23）を使います。

1 アイカップを取り外す

- アイカップの下側を押して取り外します。

2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

リモートスイッチの取り付け方

　リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）など、N3タイプの端子を持つEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます。
　なお、アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。

1 端子カバーを開ける

2 リモコン端子にプラグを取り付ける

- 図のように取り付けます。
- 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

ミラーアップ撮影 応用

セルフタイマー撮影や、リモートスイッチを使用した撮影でも、カメラブレ防止に十分な効果がありますが、超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。

［C.Fn III -6：ミラーアップ撮影］を［1：する］に設定すると、ミラーアップ撮影ができます（p.180）。

1 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がります。

2 もう一度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。タイマー作動中の10秒/2秒の間に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- ［1：**する**］設定時に、ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1 枚撮影になります。
- セルフタイマー〈 〉または〈 2〉を使用すると、10秒後、または2秒後に撮影されます。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、リモートスイッチ　RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。
- リモコン（別売／p.102）を使ってミラーアップ撮影を行うこともできます。リモートコントローラー RC-1を使うときは、リモコン側のスイッチを「2秒後」に設定して撮影することをおすすめします。

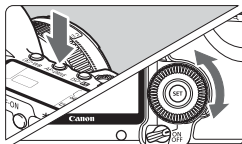
リモコン撮影

RC-1　　RC-5

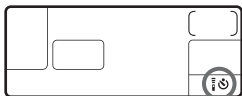
リモートコントローラー RC-1／RC-5（別売）を使用すると、カメラから最大約5m離れてリモコン撮影することができます。RC-1は「すぐに撮影」と「2秒後撮影」、RC-5は「2秒後撮影」ができます。

1 ピントを合わせる

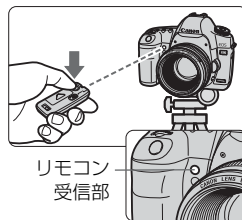
2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

● 〈AF〉で撮影することもできます。

3 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（6）

4 セルフタイマーを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈〉を回して、〈〉または〈2〉を選びます。

5 リモコンの送信ボタンを押す

● リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて、送信ボタンを押します。
➡ セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

リモコン受信部

蛍光灯が近くにあると、蛍光灯の影響でカメラが誤作動することがあります。できるだけカメラを蛍光灯から離してください。

ストロボを使った撮影

EOS用EXシリーズスピードライト

EXスピードライト（別売）を使用すると、ストロボなしの通常の撮影と同じ感覚で、簡単にストロボ撮影を行うことができます。

操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できるAタイプカメラに属しています。

クリップオンタイプストロボ

マクロストロボ

- **FEロック**

  被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの〈✱〉ボタンを押してから撮影します。

- **ストロボ調光補正**

  露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を補正することができます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±2段です（カメラ側設定時）。

  カメラの〈ISO・⚡±〉ボタンを押したあと、表示パネルまたは液晶モニターに表示される画面を見ながら、〈◎〉を回します。

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトを、TTL またはA-TTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**

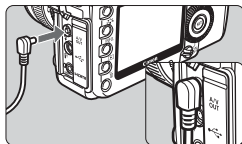
  カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。

- マニュアル発光機能を持つスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/200秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なるため、1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

シンクロ端子について

- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。端子には、コードの抜け落ちを防止するロックねじが付いています。
- シンクロ端子には極性はありません。シンクロコードの極性に関係なく、そのまま使用することができます。

ライブビュー撮影時の注意

汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、［**ライブビュー機能/動画機能設定**］の［**静音撮影**］を［**しない**］設定にしてください（p.120）。［**モード1**］、［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- シンクロ端子に 250V 以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することもできます。

MENU ストロボの機能を設定する 応用

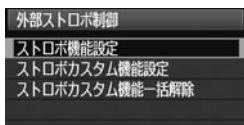
　ストロボ機能設定に対応したEXシリーズスピードライト（例：580EX II, 430EX II）を使用すると、カメラのメニュー画面から、ストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。

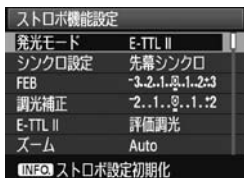
　設定を行う前に、ストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。

　ストロボの機能については、各スピードライトの使用説明書を参照してください。

ストロボ機能設定

1 ［外部ストロボ制御］を選ぶ

- ［🔧:］タブの［**外部ストロボ制御**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［ストロボ機能設定］を選ぶ

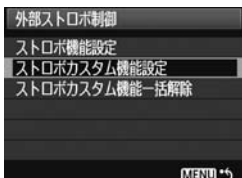
- 〈◎〉を回して［**ストロボ機能設定**］を選び、〈SET〉を押します。

3 ストロボの機能を設定する

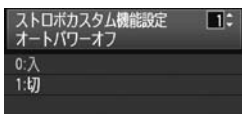
- 〈◎〉を回して項目を選び、機能を設定します。操作方法はカメラのメニュー機能の設定と同じです。
- 画面に表示される内容や、設定できる項目は、現在設定されている発光モードや、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。

- 手順3で〈INFO.〉ボタンを押すと、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、［**ストロボ機能設定**］の内、［**調光補正**］［**E-TTL II**］［**ストロボの発光**］の項目のみ設定できます。（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）

E-TTL II について

通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。
［**平均調光**］に設定すると、外部調光ストロボのように測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要な、上級者向けの設定です。

ストロボカスタム機能設定

1 ［ストロボカスタム機能設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**ストロボカスタム機能設定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ストロボの機能を設定する

- 〈◎〉を回して番号を選び、機能を設定します。操作方法はカメラのカスタム機能の設定と同じです（p.172）。

ストロボカスタム機能の設定解除

手順1で［**ストロボカスタム機能一括解除**］を選ぶと、ストロボに設定されているカスタム機能がすべて解除されます（［**C.Fn-0：距離表示**］を除く）。

EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の、［**調光方式**］が［**TTL（自動調光）**］に設定されているときは、常時フル発光します。

6

ライブビュー撮影と動画撮影

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といい、「静止画」と「動画」を撮影することができます。

1920×1080サイズ（Full HD画質）で動画を撮影するときは、大容量で、実際の書き込み/読み取り速度が8MB/秒以上のカードを使用してください

1920×1080サイズの動画撮影時に書き込みが遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
なお、カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

リモートライブビュー撮影について

付属ソフトウェアのEOS Utilityがインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

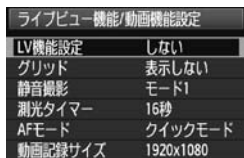
ライブビュー撮影の準備 応用

静止画のライブビュー撮影ができるようにカメラを設定します。動画の撮影については、121ページを参照してください。

1 撮影モードを設定する

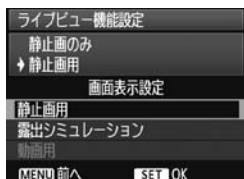
- **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**のいずれかに設定します。

2 [ライブビュー機能/動画機能設定] を選ぶ

- [🔧:] タブの [**ライブビュー機能/動画機能設定**] を選び、〈SET〉を押します。

3 [LV機能設定] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**LV機能設定**] を選び、〈SET〉を押します。
- 「LV」は、「ライブビュー」の略です。

4 [ライブビュー機能設定] の種類を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**静止画のみ**] を選び、〈SET〉を押します。
- [**静止画+動画**] については、121 ページを参照してください。

5 [画面表示設定] の内容を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**静止画用**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 手順3の画面に戻ります。
- この機能の内容については、次ページを参照してください。

6 ライブビュー映像を表示する

- 〈 〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- もう一度〈 〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えて、ライブビュー撮影が終了します。

【画面表示設定】の内容について

液晶モニターに表示する映像の明るさを選択することができます。

- **静止画用 DISP**

　静止画用の設定で、映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。

- **露出シミュレーション Exp.SIM**

　静止画用の設定で、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

- **動画用 DISP**

　動画用の設定で、標準的な明るさで表示され、［**静止画用**］よりもピントの合う奥行き（被写界深度）が深くなります。また、設定した動画記録サイズの縦横比に対応した撮影範囲が表示されます（画面の上下または左右に表示される半透過部分は動画に記録されません）。

　なお、［**動画用**］の設定でも、シャッターボタンを全押しすると、静止画を撮影することができます。ただし、シャッター速度、絞り数値、ISO感度は自動設定されます。

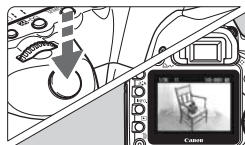
- ライブビュー撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **ライブビュー撮影全般に関する注意事項は、125、126ページにまとめて記載しています。**

全自動（ / CA）モードでも静止画と動画を撮影することができます（p.121）。

撮影する 応用

静止画のライブビュー撮影は、被写体との距離が変わらない「静物撮影」に有効です。なお、カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがありますので、三脚などの使用をおすすめします。

1 AFでピントを合わせる

- 〈AF-ON〉ボタンを押します。
- ➡ 設定されているAFモードでピント合わせが行われます（p.113）。

2 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。

ライブビュー表示中の機能操作について

- ライブビュー表示中もファインダー撮影時と同様に、ボタン操作による機能設定の変更や、再生操作を行うことができます。
- 〈AF・DRIVE〉ボタンや〈ISO・⚡〉ボタンなどを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、設定を変更することができます。
- 測光モードは設定に関係なく、ライブビュー撮影用の評価測光に固定されます。
- 絞り込みボタンを押すと、静止画撮影時の被写界深度を確認することができます。また、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降が撮影されます。

● 〈MENU〉ボタンを押すとメニュー画面が表示され、メニュー機能の設定を行うことができます。もう一度〈MENU〉ボタンを押すと、ライブビュー表示に戻ります。なお、[**ダストデリートデータ取得**]、[**センサークリーニング**]、[**設定解除**]、[**ファームウェア**]を選んだときは、ライブビュー撮影が終了します。

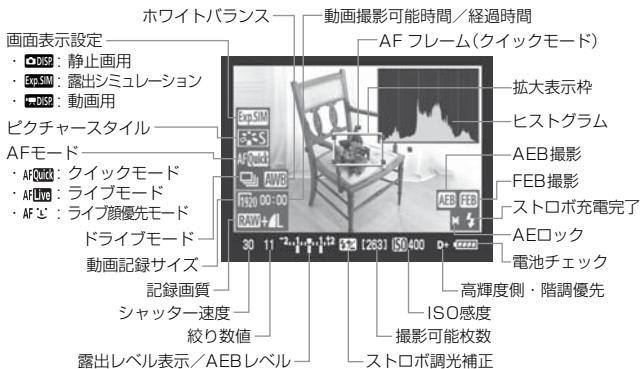
ライブビュー静止画撮影時の撮影可能枚数の目安

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	約200枚	約180枚

● 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
● 連続してライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：約2時間、低温（0℃）：約1時間50分です（フル充電のバッテリーパック LP-E6使用時）。

● 映像の視野率は、約100%です。
● カメラを操作しない状態が続くと、メニュー[**オートパワーオフ**]の設定時間で電源が自動的に切れます（p.44）。なお、設定が[**切**]のときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
● グリッド（格子線）を表示することができます。[**ライブビュー機能/動画機能設定**]の[**グリッド**]で、[**グリッド1**]または[**グリッド2**]を設定します。
● AEロックの保持時間を変えたいときは、[**ライブビュー機能/動画機能設定**]の[**測光タイマー**]で変更します。
● ストロボを使って撮影すると、シャッターが2回切れた音がして撮影されます（撮影枚数は1枚です）。
● 付属のステレオビデオケーブルや、別売のHDMIケーブルを使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.139、140）。
● リモコン（別売／p.102）を使ってライブビュー撮影を行うこともできます。

情報表示について

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

* 状況に応じた部分のみ表示されます。

〈温度〉マークについて

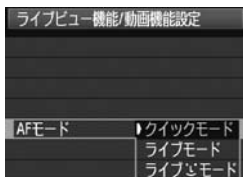
● 直射日光下など暑い場所でライブビュー撮影を行うと、〈温度〉マーク（カメラ内部の温度上昇に関する注意）が画面に表示されることがあります。そのままライブビュー撮影を継続すると、撮影画像の画質が低下する恐れがありますので、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
● ハードディスクタイプのカード使用時に〈温度〉マークが表示された状態で、ライブビュー撮影を継続し、さらにカメラ内部の温度が上昇すると、ライブビュー撮影が自動的に終了します。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなります。

● ヒストグラムと〈Exp.SIM〉は、108ページの手順5で［**露出シミュレーション**］を設定したときに表示されます。〈Exp.SIM〉が点滅するときは、低輝度、高輝度条件下のため、映像が適切な明るさで表示されていないことを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。
● ストロボ使用時、バルブ撮影時は、〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

AFでピントを合わせる 応用

AFモードを選ぶ

AFモードには、[クイックモード]、[ライブモード]（p.115）、[ライブ顔モード]（顔優先／p.116）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にしたあと、映像を拡大して、手動ピント合わせを行ってください（p.119）。

AFモードを選ぶ

- [ライブビュー機能/動画機能設定] の [AFモード] で選びます。
- ライブビュー映像表示中に〈AF・DRIVE〉ボタンを押すと、〈ダイヤル〉でAFモードを選ぶこともできます。

クイックモード：AF Quick

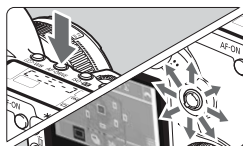
ファインダー撮影時と同じAF方式で、専用のAFセンサーを使って、ワンショットAF（p.79）でピント合わせを行います。

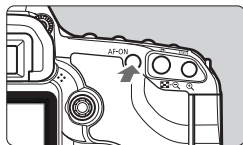
狙ったところに素早くピントを合わせることができますが、**AF中はライブビュー表示が一時的に中断されます。**

AFフレーム

拡大表示枠

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈カメラ〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 画面内の小さい枠が AF フレームで、大きい枠が拡大表示枠です。

2 AFフレームを選ぶ

- 〈AF•DRIVE〉ボタンを押したあと、〈◈〉を操作してAFフレームを選びます。
- 〈◈〉を同じ方向に押すと、任意選択と自動選択が交互に切り換わります。

3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、〈AF-ON〉ボタンを押します（ボタンは押したままにします）。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AFが行われます。
- ➡ ピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴り、ライブビュー表示に戻ります。
- ➡ ピント合わせに使用したAF フレームが赤く表示されます。

4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.110）。

- AF中は撮影できません。ライブビュー映像が表示された状態で撮影してください。
- リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）のレリーズボタンでは、AFできません。

ライブモード：AF Live

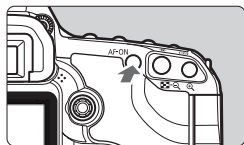
撮像素子を使ってピント合わせを行います。ライブビュー表示のままAFできますが、**「クイックモード」よりもピント合わせに時間がかかります。** また、「クイックモード」よりもピントが合いにくいことがあります。

AFフレーム

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈▲〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。

2 AFフレームを移動する

- ピントを合わせたい場所に、〈✣〉でAFフレームを移動します（画面の一番端までは動きません）。
- 〈✣〉をまっすぐに押すと、画面中央に戻ります。

3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、〈AF-ON〉ボタンを押します（ボタンは押したままにします）。
- ➡ AFが行われ、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームが赤色に変わります。

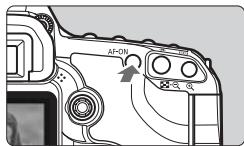
4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.110）。

ライブ☺（顔優先）モード：AF☺

ライブモードと同じAF方式で、人の顔を検知してピント合わせを行います。写される人は、顔をカメラに向けてください。

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈□〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈⸢⸥〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈◂⸢⸥▸〉が表示されます。〈✣〉でピントを合わせたい顔に〈◂⸢⸥▸〉を合わせます。

2 ピントを合わせる

- 〈AF-ON〉ボタンを押すと、〈⸢⸥〉の顔にピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームが赤色に変わります。
- 顔が検知できないときは、AF フレーム〈□〉が表示され、中央の位置でピント合わせが行われます。

3 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.110）。

- ピントが大きく外れていると、顔を検知できません。レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉のまま手動ピント合わせができるレンズのときは、フォーカスリングを回して、おおまかにピント合わせを行うと、顔を検知して画面に〈[ ]〉が表示されます。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔が横や斜めを向いている」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈[ ]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 〈✣〉をまっすぐに押すと、ライブモード（p.115）に切り換わり、〈✣〉でAFフレームを移動することができます。もう一度まっすぐに押すと、ライブ☺（顔優先）モードに戻ります。
- 画面の端のほうで検知された顔は AF できないため、〈[ ]〉が灰色で表示されます。その状態で〈AF-ON〉ボタンを押すと、画面中央のAFフレーム〈□〉でピント合わせが行われます。

ライブモードとライブ☺（顔優先）モードに関するおことわり

AFの動作について

- ピント合わせには、多少時間がかかります。
- ピントが合った状態でも、〈AF-ON〉ボタンを押すと、再度ピント合わせが行われます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 映像がちらついて（フリッカーで）ピントが合いにくいときは、一旦ライブビュー撮影を終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。映像のちらつきがなくなったことを確認してからAFを行ってください。
- ライブモードで〈⊕〉ボタンを押すと、AFフレームの部分が拡大表示されますが、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。なお、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なることがあります。
- ライブモードの通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- ライブ☺モードのときは、〈⊕〉ボタンを押しても拡大表示されません。

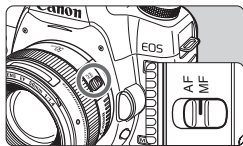
ライブモードとライブ（顔優先）モードに関するおことわり

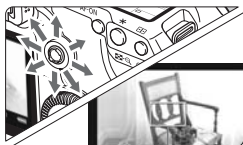
ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面など、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 横縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯などの照明下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 光を強く反射している被写体
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく、または遠ざかる被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合

- ライブモード、ライブ（顔優先）モードで、画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 外部ストロボからAF補助光は投光されません。
- リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）のレリーズボタンでは、AFできません。

手動でピントを合わせる 応用

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- レンズのフォーカスリングを回して、大まかにピントを合わせておきます。

拡大表示枠

2 拡大表示枠を移動する

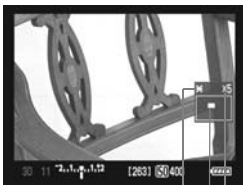
- ピントを合わせたい場所に、〈✥〉で拡大表示枠を移動します。
- 〈✥〉をまっすぐに押すと、画面中央に戻ります。

3 映像を拡大する

- 〈⊕〉ボタンを押します。

➡ 枠内が拡大表示されます。

- 〈⊕〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

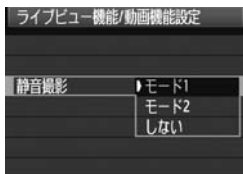
→5倍 → 10倍 → 通常表示 ┐

AEロック
拡大表示位置
拡大率

4 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈⊕〉ボタンを押して通常表示に戻します。

5 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.110）。

静音撮影する 応用

［**Ψ: ライブビュー機能/動画機能設定**］の［**静音撮影**］は、下記の説明を参考にして設定します。

● **モード1**

ファインダー撮影時よりも作動音が静かになります。ドライブモードを〈□〉にすると、約3コマ/秒で連続撮影することができます。

● **モード2**

シャッターボタンを全押しすると1枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻すとカメラが作動しますので、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、ドライブモードを連続撮影に設定していても1枚撮影になります。

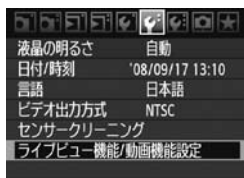
● **しない**

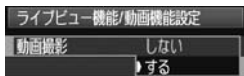
TS-Eレンズを使用して**上下方向のシフト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ずこの設定にしてください。［**モード1**］、［**モード2**］に設定すると、適正露出にならなかったり、露出ムラになったりします。

シャッターボタンを全押しすると、シャッターが2回切れた音がして撮影されます（撮影枚数は1枚です）。

- ［**モード1**］、［**モード2**］に設定していても、ストロボ撮影を行うと、［**しない**］と同じ動作になります。
- 汎用ストロボを使用する場合は、［**しない**］に設定してください。［**モード 1**］、［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。
- ［**モード2**］の設定でリモコン（p.102）撮影を行ったときは、［**モード1**］と同じ動作になります。

動画を撮影する

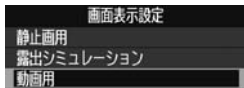
　すべての撮影モードで動画撮影を行うことができます。また、ライブビュー映像表示中、または動画撮影中にシャッターボタンを全押しすれば、静止画を撮影することもできます。
　なお、撮影した動画は、カメラをテレビに接続して再生することをおすすめします（p.139、140）。

1 ［ライブビュー機能/動画機能設定］を選ぶ

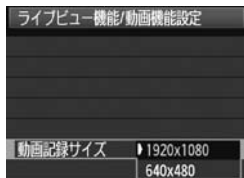
- メニューの操作方法は、108 ページと同じです。

2 動画撮影ができるように設定する

全自動（□/CA）モード

- ［**動画撮影**］を選び、［**する**］に設定します。

P/Tv/Av/M/Bモード

- ［**LV機能設定**］を選びます。
- ［**静止画+動画**］を選び、続けて［**動画用**］を選びます。

3 動画記録サイズを設定する

- ［**動画記録サイズ**］を選び、サイズを設定します。
  - ・［1920×1080］
    Full HD（フルハイビジョン）画質
  - ・［640×480］
    4：3比率の標準画質

4 ライブビュー映像を表示する

- 〈 〉ボタンを押します。
- ➡ [**画面表示設定**] (p.109) に応じた映像が、液晶モニターに表示されます。

5 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（p.113～119）。

●：動画撮影中

6 動画撮影を開始する

- 〈SET〉を押すと動画撮影が始まります。動画撮影中は、画面右上に「●」が表示されます。

7 動画撮影を終了する

- もう一度〈SET〉を押します。

動画撮影時間について

- 4GBのカードに記録できる時間は、[**1920×1080**] で約12分、[**640×480**] で約24分です。（当社試験基準）
- 動画撮影できる時間は、常温（＋23℃）：合計約1時間30分、低温（0℃）：合計約1時間20分です（フル充電のLP-E6使用時）。

画面表示について

- 動画撮影時は、画面の上下または左右に半透過部分が表示されます。その部分を除いた内側の範囲が動画として記録されます。なお、半透過部分の表示は、[**動画記録サイズ**] （p.121）の設定で変わります。
- 全自動（□/CA）モード時は、常に動画撮影用の画面表示になります。
- **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**モード時は、[**LV機能設定**] が [**静止画+動画**] に設定されていれば、[**画面表示設定**] を [**静止画用**] または [**露出シミュレーション**] に設定しても、〈SET〉を押すと動画を撮影することができます。
- シャッターボタンを半押ししたときに表示されるシャッター速度、絞り数値などは、静止画撮影用の表示です。

動画撮影時の静止画撮影について

- **シャッターボタンを全押しすると、動画撮影中を含め、いつでも静止画を撮影することができます。**ただし、シャッター速度、絞り数値は自動設定されます。また、ISO感度も100～3200の範囲で自動設定されます。
- 撮影範囲は、半透過部分を含む画面全体が静止画として記録されます。
- 動画撮影中に静止画撮影を行うと、動画の中に静止状態の映像が約1 秒間記録されます。撮影した静止画がカードに記録され、ライブビュー映像が表示されると、自動的に動画撮影が再開します。なお、カードには撮影した動画1 ファイルと、撮影枚数分の静止画ファイルが記録されます。

動画撮影に関するおことわり

記録・画質関連

- 動画撮影を開始してからファイルサイズが4GBに達した時点、または29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。
- 動画撮影時はISO感度が自動設定されます。ISO100を基準に、暗い場所では最高ISO6400（感度拡張時はH1：12800相当）になります。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、撮影条件により動画撮影時間が短くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉の位置にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、手ブレ補正機能の作動音や、AF動作のためのモーター駆動音、合焦音が録音されます。また、撮影中にダイヤルやレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。なお、市販の外部マイクを使用すると、これらの音を録音しないように（低減）することができます。
- 動画撮影中にAFを行うと、一時的にピントが大きくボケたり、露出変化が生じることがあるため、おすすめできません。なお、AFモードが［**クイックモード**］に設定されているときは、動画撮影中に〈AF-ON〉ボタンを押してもAFはできません。
- ［**画面表示設定**］が［**静止画用**］または［**露出シミュレーション**］の表示状態から、動画撮影を開始すると、動画の先頭部分に一瞬大きな露出変化が記録されることがあります。

操作関連

- 動画撮影中の静止画撮影のときは、外部ストロボを使用しても発光しません。
- ［**画面表示設定**］が［**動画用**］に設定されているときは、絞り込みボタンを押しても、機能しません。

動画撮影に関するおことわり

再生・テレビ接続関連

- 動画撮影中に明るさが大きく変化すると、動画を再生したときに、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。
- HDMIケーブルでテレビと接続して（p.140）、ライブビュー映像を表示した状態で［**1920×1080**］の動画撮影を行うと、テレビに表示される映像のサイズが小さくなります。ただし、動画は設定どおり［**1920×1080**］サイズで記録されます。
- テレビと接続して（p.139、140）、ライブビュー映像を表示した状態で動画撮影を行うと、テレビから音は出ません（音声は正しく記録されますが、カメラからテレビに対して音声は出力されません）。

書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードに書き込みできていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
なお、書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。

インジケーター

記録・画質関連

- 動画はMOV形式で記録されます。
- 設定されているピクチャースタイルで動画記録されます。
- 動画に最適化されたsRGB相当の色空間で記録されます。

露出関連

- ［**画面表示設定**］が［**動画用**］に設定されているときや、動画撮影中は、電源スイッチを〈⤴〉にして〈◎〉を回すと、映像の明るさを調整（露出補正）することができます（□/CAモードを除く）。
- 動画撮影中に〈✱〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます。解除するときは、〈⊞〉ボタンを押します（測光タイマーは作動しません）。
- 動画撮影時は、中央部重点平均測光になります。ただし、AFモードが［**ライブ☺（顔優先）モード**］に設定されているときは、被写体の顔に連動した評価測光で露出制御が行われます。

音声関連

- 音声は、カメラに内蔵されたマイク（p.16）でモノラル録音されます。
- 外部マイク入力端子（p.16）に、ステレオミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のマイクを接続すると、ステレオ録音することができます。
- 音量（録音レベル）は自動調整されます。

操作・表示関連

- 動画撮影中の静止画撮影時に、ドライブモードが〈セルフ〉、〈セルフ2〉に設定されているときは、自動的に〈□〉（1枚撮影）で撮影されます。
- リモートコントローラー RC-1/RC-5（別売／p.102）を使用すると、動画撮影の開始／停止を行うことができます。RC-1は撮影タイミングスイッチを〈**2**〉（2秒後撮影）の位置にして、送信ボタンを押します。〈●〉（すぐに撮影）の位置のときは、静止画撮影になります。
- カードの残り容量がわずかで、動画撮影ができないときは、動画記録サイズと動画撮影可能時間（p.112）が赤く表示されます。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。ただし、動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 太陽など、極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。静止画撮影時は、その部分は明るい状態で正しく記録されますが、動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では、ライブビュー映像に色ノイズが発生することがあります。静止画撮影時は、この色ノイズは画像には記録されませんが、動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

撮影結果について

- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影画像の画質が低下する恐れがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- 画質低下を防ぐため、長秒時露光や動画撮影を行うときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。
- 高温・高ISO感度の条件でライブビュー撮影を行うと、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で静止画を撮影したり、暗い場所で動画を撮影すると、横縞状のノイズが目立つことがあります。
- 拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。なお、拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値が赤く表示されます。なお、拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

カスタム機能について

- ライブビュー撮影では、設定が無効になるカスタム機能があります (p.173)。
- ［**C.Fn II -4：オートライティングオプティマイザ**］（p.177）が、［**3：しない**］以外に設定されているときは、暗めに露出補正／ストロボ調光補正を行っても明るく撮影されることがあります。

レンズとストロボについて

- 超望遠レンズに搭載されている、フォーカスプリセット機能は使用できません。
- 外部ストロボ使用時にFEロック、モデリング発光、テスト発光はできません。

Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD(High Definition)映像に対応していることを示しています。

7

画像の再生

　撮影した画像や動画をカメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明します。

他の機器で撮影・記録された画像について

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

▶ 画像を再生する

1枚表示

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

1枚表示

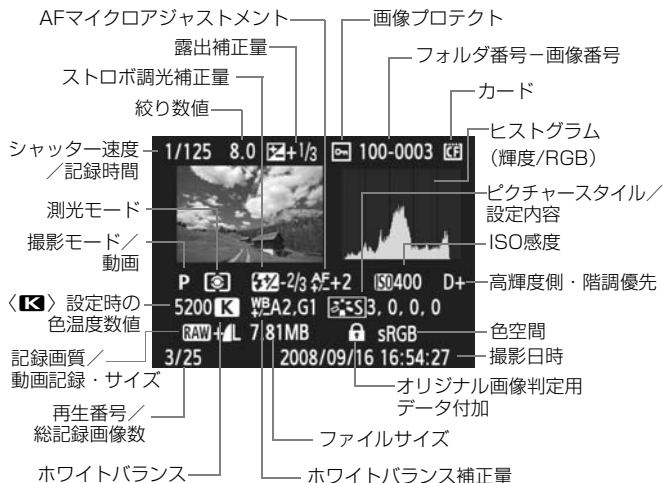
1枚表示＋記録画質

ヒストグラム表示

撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

INFO. 撮影情報の内容

* RAW+JPEGの設定で撮影した画像は、JPEG画像のファイルサイズが表示されます。

● **ハイライト警告表示ついて**

メニュー［**▶: ハイライト警告表示**］を［**する**］に設定すると、露出オーバーで白飛びした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● **AFフレーム表示ついて**

メニュー［**▶: AFフレーム表示**］を［**する**］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数同時に表示されることがあります。

● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、メニュー［▶ **ヒストグラム**］で行います。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例

暗い成分が多い

普通の明るさ

明るい成分が多い

［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

▶ 見たい画像を素早く探す

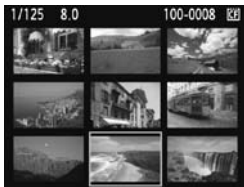
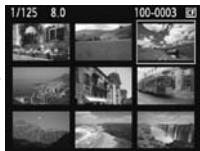
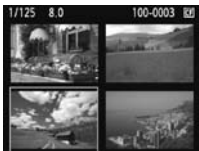
⊞ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚、または9枚の画像を表示することができます。

1 インデックス表示にする

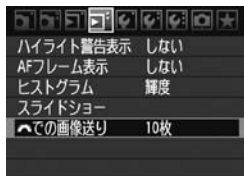
- 画像を再生した状態で、〈⊞·⊖〉ボタンを押します。
- ➡ 4枚インデックス表示になります。選択されている画像に青色の枠が付きます。
- もう一度〈⊞·⊖〉ボタンを押すと、9枚インデックス表示になります。

➡

➡

2 画像を選ぶ

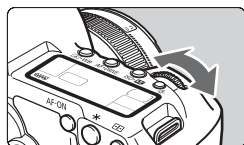
- 〈◎〉を回すと、［▶ ◎での画像送り］（p.132）で設定されている方法で画像が送られます。
- 〈○〉を回して青色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈⊕〉ボタンを押すと、青色の枠で選んだ画像が拡大表示されます。（9枚→4枚→1枚）

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

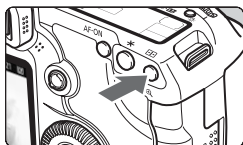
1枚表示、インデックス表示、拡大表示のときに、〈 〉を回すと画像を飛ばして表示することができます。

1 ジャンプ方法を選ぶ

- メニュー［ での画像送り］で［1枚/10枚/100枚/1画面/撮影日/フォルダ/動画/静止画］の中から、希望するジャンプ方法を選び、〈SET〉を押します。
- インデックス表示のときに画面単位でジャンプしたいときは、［1画面］を選びます。
- 撮影した日の日付単位でジャンプしたいときは［撮影日］、フォルダ単位でジャンプしたいときは［フォルダ］を選びます。

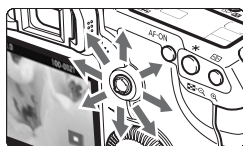
2 画像送りをする

- 〈 〉ボタンを押して画像を再生します。
- 〈 〉を回します。
- ➡ 設定した方法でジャンプ表示が行われます。
- ➡ 画面右下にジャンプ方法と、現在再生している画像の位置が表示されます。

ジャンプ方法
再生位置

〈⊕〉／〈⊖〉 拡大して見る

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

拡大表示位置

1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で、〈⊕〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示されます。
- 〈⊕〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈⊞・⊖〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、1枚表示まで連続的に小さくなります。

2 表示位置を移動する

- 〈✥〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。

- 拡大表示中に〈◎〉（または〈⚙〉）を回すと、拡大率、拡大位置が固定された状態で、画像を切り換える（設定されている画像送りの方法でジャンプ表示する）ことができます。
- 撮影直後の画像表示中からの拡大表示はできません。
- 動画は拡大表示できません。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときに、この方法で回転させます。

1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶］タブの［**画像回転**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

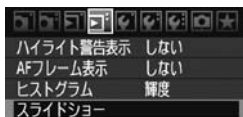
- 〈◎〉を回して回転する画像を選びます。
- インデックス表示にして選ぶこともできます。

3 画像を回転する

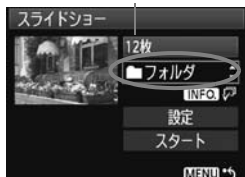
- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

- メニュー［**縦位置画像回転表示**］を［**する**］（p.146）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、メニュー［**縦位置画像回転表示**］を［**する**］に設定します。
- 動画は回転できません。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。

1 ［スライドショー］を選ぶ

- ［▶:］タブの［**スライドショー**］を選び、〈SET〉を押します。

再生する枚数

2 再生する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して図に示した項目を選び、〈SET〉を押します。

［全画像/動画/静止画］

- 〈◎〉を回して［**全画像/動画/静止画**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

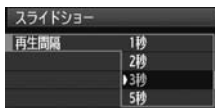
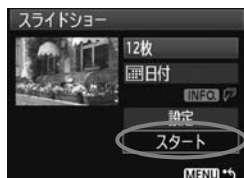
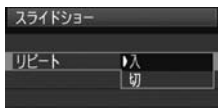
［フォルダ/日付］

- 〈◎〉を回して［**フォルダ/日付**］のいずれかを選びます。
- 〈INFO.〉が明るく表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回してフォルダ、または日付を選び、〈SET〉を押します。

項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。

3 再生間隔とリピートを設定する

- 〈◎〉を回して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- 静止画の［**再生間隔**］と、［**リピート**］（繰り返し再生）の設定を行い、〈MENU〉ボタンを押します。

［**再生間隔**］

［**リピート**］

4 スライドショーを開始する

- 〈◎〉を回して［**スタート**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ［**画像読み込み中...**］が数秒間表示されたあと、スライドショーが始まります。
- 一時停止したいときは、〈SET〉を押します。一時停止中は画像の左上に［ II ］が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、再開します。

5 スライドショーを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し設定画面に戻ります。

- 一時停止中に〈◎〉または〈〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフは機能しません。
- 画像により、表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、139、140ページを参照してください。

🎥 動画を再生する

1 画像を再生する

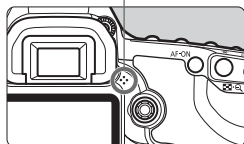
- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

2 動画を選ぶ

- 〈◎〉を回して画像を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈🎥 SET〉が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈⊕〉ボタンを押して1枚表示にします。**

3 〈SET〉を押す

- 1枚表示の状態で〈SET〉を押します。
- ➡ 画面の下側に動画再生パネルが表示されます。

スピーカー

4 動画を再生する

- 〈◎〉を回して[▶](再生)を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 動画再生が始まります。
- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止されます。
- 〈⚙〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

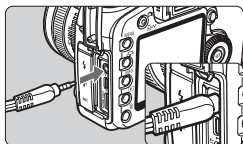
項目	再生内容
終了	1枚表示の状態に戻ります。
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
スロー再生	〈◎〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
⏭ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
	再生位置
mm’ SS”	再生時間
音量	〈◎〉を回すと、カメラに内蔵されているスピーカー（p.17）で音量を調整することができます。

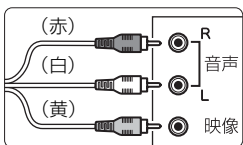
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、撮影情報表示を切り換えることができます。
- 動画撮影中に静止画を撮影した場面では、約1秒間、静止画が表示されます。
- カメラをテレビに接続して（p.139、140）動画を再生するときは、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈◎〉を回しても音量は変わりません）。
- カメラでは、動画の編集はできません。付属ソフトウェアの ZoomBrowser EX/ImageBrowserを使用すると、動画の前後の不要な部分を削除することができます。

テレビで見る

撮影した静止画や動画を、テレビなどで見ることができます。ケーブルの接続／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。

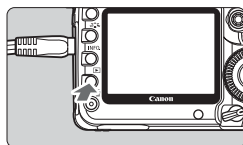
* 動画の音量はテレビで調整します。
* 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

HD（ハイビジョン）非対応のテレビで見る

1 付属のステレオビデオケーブルをカメラに接続する

- カメラの〈A/V OUT〉端子に、ステレオビデオケーブルを接続します。プラグの根元までしっかり差し込みます。

2 テレビにビデオケーブルを接続する

- ステレオビデオケーブルを、テレビの映像入力端子と、音声入力端子に接続します。

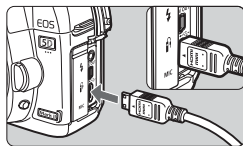
3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

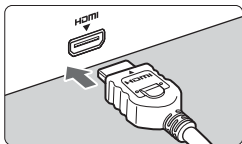
4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 動画の再生方法は、137 ページを参照してください。

- テレビ方式と異なるビデオ出力方式が設定されていると、画像が正しく表示されません。そのときは、メニュー［ビデオ出力方式］で方式を切り換えてください。
- 付属のステレオビデオケーブル以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。

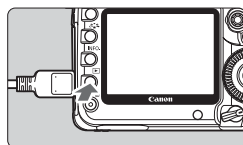
HD（ハイビジョン）対応のテレビで見る

別売のHDMIケーブル HTC-100が必要です。

1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、HDMIケーブルを接続します。
- プラグの〈**▲HDMI MINI**〉マークが、カメラの前面に向くようにして差し込みます。

2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、表示を切り換えることができます。
- 動画の再生方法は、137 ページを参照してください。

- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、他の機器からの出力を入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、撮影した画像を再生できないことがあります。その場合は、付属のステレオビデオケーブルで接続してください。
- 〈**A/V OUT**〉端子と〈**HDMI OUT**〉端子は、同時に使用できません。

⊶ 保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないよう、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶̇］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。

プロテクト表示

2 画像を選んでプロテクトをかける

- 〈◎〉を回してプロテクトをかける画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の上に〈⊶〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- 他にプロテクトをかけたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了し、メニューに戻ります。

カードを初期化すると（p.43）**、プロテクトされた画像も消去されます。**

- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.143）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

🗑 消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.141）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

3 消去する

● 〈◎〉を回して［**消去**］を選び〈SET〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

MENU チェック〈√〉を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

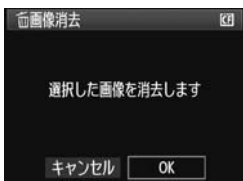
1 ［画像消去］を選ぶ

● ［▶̇］タブの［**画像消去**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［選択して消去］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**選択して消去**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。
- 〈▦·Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

3 消去したい画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して消去したい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画面の左上に〈✓〉が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

4 消去する

- 〈㎥〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像が消去されます。

MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することもできます。メニュー［▶ **画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

再生に関する機能の設定を変更する

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターは、見やすい明るさに自動調整されます。なお、自動調整時の明るさ（明るめ/暗め）を設定したり、手動で明るさを調整することもできます。

1 ［液晶の明るさ］を選ぶ

- ［ﾀﾌﾞ］タブの［**液晶の明るさ**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 ［自動］または［手動］を選ぶ

- 〈ダイヤル〉を回して選びます。

3 明るさを調整する

- グレーチャートを参考にして、〈◎〉を回して調整し、〈(SET)〉を押します。
- ［**自動**］は3段階、［**手動**］は7段階に調整することができます。

自動調整

手動調整

- ［**自動**］のときは、電源スイッチの左側にある丸い部分（外光センサーの窓）を指などでふさがないようにしてください。
- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.130）で確認することをおすすめします。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。

1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

- ［◘˙］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

［**ホールド**］に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで表示されます。

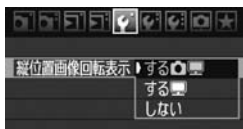
MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定

縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

1 [縦位置画像回転表示] を選ぶ

- [🔧] タブの [縦位置画像回転表示] を選び、〈SET〉を押します。

2 回転表示を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

- **する📷🖥**
  カメラで再生するときと、パソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき
- **する🖥**
  パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき
- **しない**
  自動回転させたくないとき

[しない] で撮影した画像は、[する] に設定して再生しても、自動回転表示されません。

- 撮影直後に表示される画像は自動回転表示されません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

8

撮像素子の清掃

　このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く､セルフ クリーニング センサー ユニットを搭載しています。

　また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動的に消去することができます。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う。
- レンズを外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける。
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける。

セルフ クリーニング センサー ユニットの作動中でも、シャッターボタンを半押しすると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。

撮像素子の自動清掃

このカメラは、電源スイッチを〈ON/⤶〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する

1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [🔧:] タブの [センサークリーニング] を選び、〈SET〉を押します。

2 [今すぐクリーニング] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [今すぐクリーニング] を選び、〈SET〉を押します。
- メッセージ画面で [OK] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを垂直に置いて清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、[今すぐクリーニング] が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

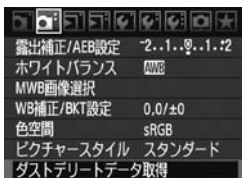
- 手順2で [自動クリーニング] を選び、[しない] を選びます。
- ➡ 電源スイッチを〈ON/⤶〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

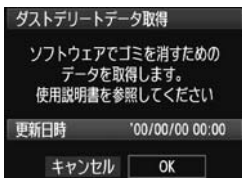
MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

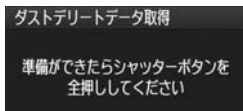
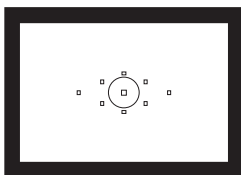
通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

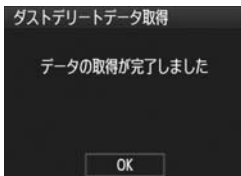
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回します。

ダストデリートデータを取得する

1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

- ［タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押すと、撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20 ～ 30cm の距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。

- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  ［OK］を選ぶと、メニューに戻ります。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、［OK］を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、付属ソフトウェアによる自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量はごく小さなものですので、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

> 未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、付属ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。

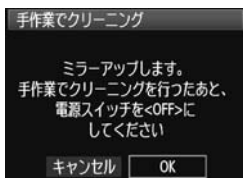
撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

清掃を始める前にレンズを取り外してください。

1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [🔧] タブの [センサークリーニング] を選び、〈SET〉を押します。

2 [手作業でクリーニング] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [手作業でクリーニング] を選び、〈SET〉を押します。

3 [OK] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [OK] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。
- 表示パネルに「**CLn**」が点滅します。

4 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

- 電源には、ACアダプターキット ACK-E6（別売）の使用をおすすめします。
- 電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。なお、バッテリーグリップを装着して、電源に単3形電池を使用しているときは、手作業で撮像素子の清掃はできません。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・電池室ふたを開ける
  ・カードスロットカバーを開ける
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。

画像の印刷とパソコンへの転送

● **印刷**（p.154）

カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷することができます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge」に対応しています。

● **画像を印刷指定する／DPOF**（p.163）

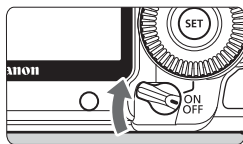
カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

● **パソコンに画像を送る**（p.167）

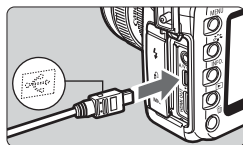
カメラとパソコンをつないで、カメラを操作するだけで、カードに記録された画像をパソコンに送ることができます。

印刷の準備をする

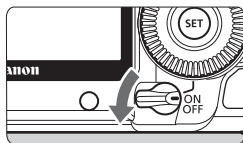
ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います**。

カメラとプリンターを接続する

1 **カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする**

2 **プリンターの準備をする**

- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。

3 **カメラとプリンターを接続する**

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈•⟵〉マークが、カメラの前面に向くようにして、〈•⟵〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 **プリンターの電源を入れる**

5 **カメラの電源スイッチを〈ON〉にする**

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

6 画像を再生する

● 〈▶〉ボタンを押します。

➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈〉が表示されます。

➡ 〈〉ボタンのランプが青色に点灯します。

● 動画は印刷できません。
● 「CPダイレクト」または「Bubble　Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
● 付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
● 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。どのような問題が発生しているかは、次の操作で確認できます。
  1.〈▶〉ボタンを押して画像を再生する
  2.〈SET〉を押す
  3. 印刷設定画面で［**印刷**］を選ぶ

  液晶モニターにエラーメッセージが表示されます（p.162）。

● このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。
● カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約3時間30分印刷できます。
● ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
● ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキット ACK-E6（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

印刷設定画面

- 印刷効果を設定します（p.158）
- 日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
- 何枚印刷するかを設定します
- 印刷範囲を設定します（p.161）
- 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
- 手順1の画面に戻ります
- 印刷を開始します

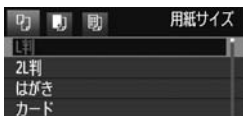
設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

*** プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

3 ［用紙設定］を選ぶ

- ［**用紙設定**］を選び〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定

● プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。

➡ 用紙タイプの設定画面になります。

用紙タイプの設定

● プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。

● キヤノン製プリンターで、純正用紙を使うときは、プリンターの使用説明書で使用できる用紙を確認してください。

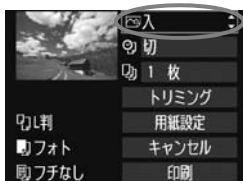
➡ レイアウトの設定画面になります。

レイアウトの設定

● 印刷レイアウトを選び〈SET〉を押します。

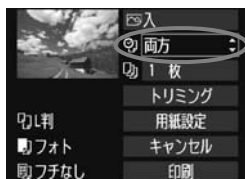
➡ 印刷設定画面に戻ります。

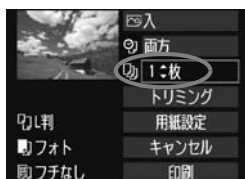
フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり i	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 i **35面配置 □**	DPOF（p.163）で印刷指定した画像を20画像、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します。 ・［**20面配置 i**］では、撮影情報*を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

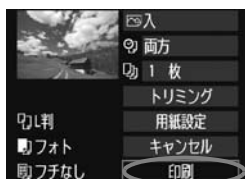
* Exif 情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**
- 図の項目を選び、〈SET〉を押します。
- 印刷効果を選び〈SET〉を押します。
- 〈INFO.〉の横に〈 〉が表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます（p.160）。

項目	印刷内容
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
切	自動補正は行われません。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われ印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

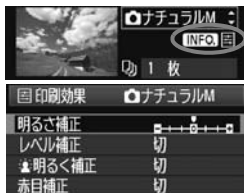
* **印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なる場合があるため、目安としてとらえてください。160ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**

5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷内容を選び〈SET〉を押します。

6 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷枚数を選び〈SET〉を押します。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 〈〉ボタンの青いランプが点滅して、印刷が始まります。

- 同じ設定で別の画像を印刷するときは、画像を選んで、青いランプが点灯した〈〉ボタンを押すだけで「かんたん印刷」ができます。なお、「かんたん印刷」のときは、1枚ずつ印刷されます（印刷枚数は指定できません）。また、トリミングの設定（p.161）は反映されません。
- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定した印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 画像の傾き補正（p.161）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押して［**OK**］を選びます。

印刷効果の調整について

158ページの手順4で項目を選び、〈INFO.〉の横に〈目〉が表示されているときに、〈INFO.〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

● **明るさ補正**

画像の明るさを調整することができます。

● **レベル補正**

［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。

レベル補正画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈▲〉の位置が切り換わります。〈◎〉を回すと、シャドウレベル（0～127）、ハイライトレベル（128～255）を任意に調整することができます。

● **明るく補正**

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

● **赤目補正**

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

- ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
- ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整することができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は、〈◈〉で行います。Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。**トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。**トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

● 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈⊕〉〈⊞·⊖〉ボタンを押すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈✣〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

〈INFO.〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の傾きを補正する

〈◎〉を回すと、0.5度単位±10度の範囲で画像を回転させることができます。回転を行うと、画面上の〈◸〉が青色に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。

● 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。
- トリミングは、液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

⎙画像を印刷指定する／DPOF

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する

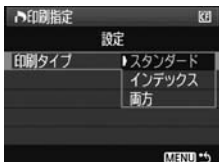
1 ［印刷指定］を選ぶ

➡ ［▶︎］タブの［**印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［設定］を選ぶ

● ［**設定**］を選び〈SET〉を押します。

3 項目の内容を設定する

● ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
● 項目を選び〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

［**印刷タイプ**］

［**日付**］

［**画像番号**］

印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入 / 切		［**入**］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
画像番号	入 / 切		［**入**］にすると、画像番号を付けて印刷します。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の［**画像選択**］［**■指定**］［**全画像**］で、印刷する画像を指定します。

- ［**日付**］［**画像番号**］を［**入**］にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。
- ［**インデックス**］に設定したときは、［**日付**］と［**画像番号**］を同時に［**入**］にできません。

印刷する画像を指定する

● 画像選択

画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈⊞・Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈⊕〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

指定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

[スタンダード][両方]

〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈◎〉を回すと、その画像の枚数指定を最大99枚にすることができます。

[インデックス]

〈SET〉を押すと、表示されている画像がインデックス印刷用の画像として指定され、画面左上に〈✓〉が表示されます。

● ■指定

指定を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、解除を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● 全画像

指定を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、解除を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- ■指定／全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を、400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント

印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

● 154ページを参照してください。
『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [ ] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

● [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する（p.156）

● 印刷効果（p.158）は必要に応じて設定します。

5 [OK] を選ぶ

● 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
● プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
● [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
● 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

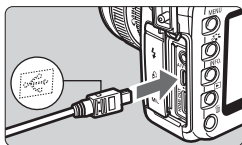
● [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
● 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
・インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
・印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
● 印刷中に問題が発生したときは、162ページを参照してください。

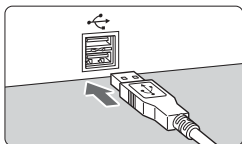
パソコンに画像を送る

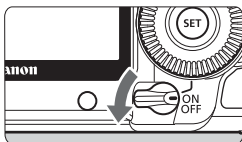
カメラとパソコンをつないで、カメラからの操作でカードに記録された画像をパソコンに送ることができます。この機能をダイレクト画像転送といいます。

カメラとパソコンを接続する前に、必ず付属のソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk／CD-ROM）をパソコンにインストールしてください。
付属ソフトウェアのインストール方法については、別紙のCD-ROMガイドを参照してください。

画像転送の準備

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 カメラとパソコンを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときはプラグの〈USB〉マークが、カメラの前面に向くようにして、〈USB〉端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

3 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

- パソコンに、プログラムを選択する画面が表示されたときは、［EOS Utility］を選びます。
- ➡ パソコンに［EOS Utility］の画面が表示され、カメラの液晶モニターにダイレクト転送画面が表示されます。

- ［**EOS Utility**］の画面が表示されないときは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。

パソコンに画像を送る

パソコンに送られた画像は、［**マイピクチャ**］フォルダ、または［**ピクチャ**］フォルダに、撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。

● 全画像

カードに入っている、すべての画像をパソコンに送ります。

- ［**全画像**］を選び〈 〉ボタンを押します。
- ➡〈 〉ボタンの青いランプが点滅して、画像転送が始まります。
- ➡ 転送が終わると点灯します。

- 動画は静止画に比べてファイルサイズが大きいため、転送に時間がかかります。
- 転送中は絶対にケーブルの取り外しを行わないでください。
- ダイレクト転送画面表示中は、撮影できません。

［**全画像**］以外の項目は、次のようになっています。〈⎙〉ボタンを押すと画像転送が始まります。

- **未転送画像**

　パソコンに転送されていない画像を、カメラが自動的に選んで転送します。

- **送信指定画像**

　パソコンに送る画像を指定して、まとめて転送します。画像の指定方法は、170ページを参照してください。

- **画像を選んで転送**

　画像を1枚ずつ選んでパソコンに転送します。終了するときは〈MENU〉ボタンを押します。

- **パソコンの背景**

　画像を選び、転送するとパソコンのデスクトップの背景（壁紙）として表示されます。終了するときは〈MENU〉ボタンを押します。

- 〈⎙〉ボタンを押す代わりに〈SET〉を押すと、確認画面が表示されます。［OK］を選んで〈SET〉を押すと転送が始まります。
- RAW画像と動画は、壁紙として転送できません。

MENU パソコンに送る画像を指定する

［⊡］タブの［**送信指定**］で、パソコンに転送する画像をあらかじめ指定することができます。

169ページで［**送信指定画像**］を選ぶと、ここで送信指定した画像を転送することができます。

● 画像選択

画像を1枚ずつ選んで指定します。〈SET〉を押すと、表示されている画像が指定され、画面の左上に〈✓〉が表示されます。

指定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

● ■指定

指定を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が送信指定されます。なお、解除を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の送信指定がすべて解除されます。

● 全画像

指定を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が送信指定されます。なお、解除を選ぶと、カード内の送信指定がすべて解除されます。

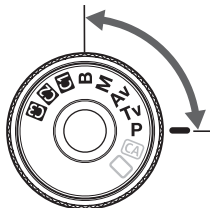
他のカメラで送信指定した画像を、このカメラに入れて再度送信指定しないでください。送信指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、送信指定できないことがあります。

- 記録画質RAW+JPEGで撮影した画像を送信指定すると、“1枚”としてカウントされます。ダイレクト転送を行うと、RAW画像、JPEG画像ともにパソコンに転送されます。
- 999画像以上を一度に転送するときは、ダイレクト転送画面で［**全画像**］を選んでください（p.168）。

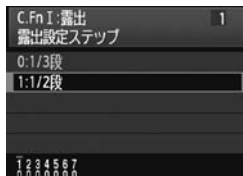
10

カメラをカスタマイズする

カスタム機能でカメラの機能を細かく変更することができます。また、現在使用しているカメラの設定内容を、モードダイヤルの〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉に登録することができます。

なお、この章で説明する機能は、**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**の撮影モードで設定、機能します。

MENU カスタム機能の設定方法 応用

1 ［ ］を選ぶ

● 〈 〉を回して［ ］を選びます。

2 グループを選ぶ

● 〈 〉を回してC.Fn I～IVのいずれかを選び、〈SET〉を押します。

カスタム機能番号

3 カスタム機能番号を選ぶ

● 〈 〉を回して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。

4 設定を変更する

● 〈 〉を回して設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。

● 手順2～4を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。

● 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。

5 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押します。

➡ 手順2の画面に戻ります。

カスタム機能の設定解除

手順2で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

カスタム機能の一括解除を行っても、［**C.Fn IV -5：フォーカシングスクリーン**］の設定内容は保持されます。

MENU カスタム機能一覧 応用

C.Fn I：露出

<table>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>LV静止画</th><th>LV動画</th></tr>
<tr><td>1</td><td>露出設定ステップ</td><td rowspan="4">p.174</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>2</td><td>ISO感度設定ステップ</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td>ISO感度拡張</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>4</td><td>ブラケティング自動解除</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td>ブラケティング順序</td><td rowspan="3">p.175</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td>セイフティシフト</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td>Avモード時のストロボ同調速度</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

C.Fn II：画像

<table>
<tr><td>1</td><td>長秒時露光のノイズ低減</td><td rowspan="2">p.176</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>高感度撮影時のノイズ低減</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td>高輝度側・階調優先</td><td rowspan="2">p.177</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>4</td><td>オートライティングオプティマイザ</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

C.Fn III：AF・ドライブ

<table>
<tr><td>1</td><td>AF測距不能時のレンズ動作</td><td rowspan="2">p.178</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>2</td><td>レンズ・AFストップボタンの機能</td><td colspan="2">（2, 3, 5有効／※）</td></tr>
<tr><td>3</td><td>AFフレーム選択方法</td><td rowspan="3">p.179</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>4</td><td>スーパーインポーズの表示</td><td colspan="2">○（クイックモード）</td></tr>
<tr><td>5</td><td>AF補助光の投光</td><td colspan="2">○（クイックモード）</td></tr>
<tr><td>6</td><td>ミラーアップ撮影</td><td rowspan="2">p.180</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>7</td><td>AFフレームの領域拡大</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>8</td><td>AFマイクロアジャストメント</td><td>p.181</td><td colspan="2">○（クイックモード）</td></tr>
</table>

C.Fn IV：操作・その他

<table>
<tr><td>1</td><td>シャッター /AF-ONボタン</td><td rowspan="2">p.182</td><td colspan="2">（3有効／※）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>AF-ON/AEロックボタン入替</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>3</td><td>SETボタンの機能</td><td rowspan="2">p.183</td><td>（5, 6無効）</td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td>Tv/Av値設定時のダイヤル回転</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td>フォーカシングスクリーン</td><td>p.184</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>6</td><td>オリジナル画像判定用データの付加</td><td>p.185</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

※：動画モード時無効

□ が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）機能による静止画撮影時、または動画撮影時には機能しません（設定が無効になります）。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

C.Fn I：露出

C.Fn I -1　露出設定ステップ

0： 1/3段

1： 1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示は図のようになります。

C.Fn I -2　ISO感度設定ステップ

0： 1/3段

1： 1段

C.Fn I -3　ISO感度拡張

0： しない

1： する

ISO感度を設定するときに、ISO50相当「**L**」と、ISO12800相当「**H1**」、ISO25600相当「**H2**」が選択できるようになります。

C.Fn I -4　ブラケティング自動解除

0： する

電源スイッチ〈OFF〉、カメラ設定初期化を行うと、AEB、WB-BKTの設定が解除されます。また、ストロボ充電（完了）でAEBの設定が解除されます。

1： しない

電源スイッチ〈OFF〉を行っても、AEB、WB-BKTの設定が解除されないようになります（ストロボ充電完了でAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています）。

C.Fn I -5　ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、ホワイトバランスブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0：0→−→+

1：−→0→+

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
− ：マイナス補正	−：ブルー寄りに補正	−：マゼンタ寄りに補正
+ ：プラス補正	+：アンバー寄りに補正	+：グリーン寄りに補正

C.Fn I -6　セイフティシフト

0：しない

1：する（Tv/Av値）

シャッター優先AE（**Tv**）、絞り優先AE（**Av**）モードで機能します。被写体の明るさが急に変化して、適切な自動露出値が得られない場合、設定値をカメラが自動的に変更して、適正露出で撮影することができます。

C.Fn I -7　Avモード時のストロボ同調速度

0：自動

1：1/200-1/60秒自動

絞り優先AE（**Av**）モードのストロボ撮影のときに、暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により適正露出になりますが、被写体の背景は暗くなります。

2：1/200秒固定

シャッター速度が1/200秒に固定されるため、1よりも被写体ブレや手ブレを防止することができます。ただし、暗い場所では1よりも被写体の背景が暗くなります。

C.Fn II：画像

C.Fn II -1　長秒時露光のノイズ低減

0：しない

1：自動

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この［**自動**］で十分な効果が得られます。

2：する

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

- 1，2設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。なお、低減処理中でも、ファインダー内の連続撮影可能枚数が「**1**」以上のときは、続けて撮影することができます。
- 2設定時、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

C.Fn II -2　高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減します。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。ノイズの程度に応じて設定を変更します。

0：標準

1：弱め

2：強め

3：しない

2設定時は、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります。

C.Fn II -3　高輝度側・階調優先

0：しない

1：する

　高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

1設定時は、通常撮影時より、低輝度部のノイズが若干増えることがあります。

1設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～6400になります。
また、表示パネルとファインダー内には、〈**D+**〉（ダイナミックレンジ拡張）が表示されます。

C.Fn II -4　オートライティングオプティマイザ

　撮影結果が暗い場合や、コントラストが低い場合に、明るさ・コントラストをカメラが自動的に補正します。
　RAW画像は、カメラで設定した内容を付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像する際に反映することができます。

0：標準

1：弱め

2：強め

3：しない

● 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。
● マニュアル露出、バルブ撮影のときは機能しません。

全自動（□/CA）モードでは、［**標準**］に自動設定されます。

C.Fn III：AF・ドライブ

C.Fn III -1　AF測距不能時のレンズ動作

AFを行ってピントが合わないときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。

0：サーチ駆動する

1：駆動しない

再測距を行って大ボケ状態になることを防止することができます。特に大ボケ状態になりやすい、超望遠レンズ使用時に有効です。

C.Fn III -2　レンズ・AFストップボタンの機能

*AFストップボタンは、手ブレ補正機能付き超望遠レンズに装備されています。

0：AFストップ

1：AFスタート

押している間だけAFが作動します。押している間は、カメラ側操作によるAF作動は行いません。

2：AEロック

押すとAEロックします。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

3：測距点 任意→自動/自動→中央

AFフレーム任意選択時に押すと、押している間だけAFフレーム自動選択になります。AIサーボAF作動中に、任意選択したAFフレームで被写体に追従できなくなったときに有効です。AFフレーム自動選択時に押すと、押している間だけ中央のAFフレームが選択されます。

4：ワンショット⇄AIサーボ

ワンショットAF時に押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動・停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

5：手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能スイッチが〈**ON**〉のときに、AFストップボタンを押すと、手ブレ補正機能が作動します。シャッターボタンを半押ししても、手ブレ補正機能は作動しません。

C.Fn III -3　AFフレーム選択方法

0： 通常

〈⊞〉ボタンを押したあと、〈✣〉または〈⚙/◎〉でAFフレームを選びます。

1： マルチコントローラーダイレクト

最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈✣〉で直接AFフレームを選ぶことができます。〈⊞〉ボタンを押すと自動選択になります。

2： サブ電子ダイヤルダイレクト

最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈◎〉で直接AFフレームを選ぶことができます。〈⊞〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回すと、露出補正を行うことができます。

C.Fn III -4　スーパーインポーズの表示

0： する

1： しない

ピントが合ったときに、ファインダー内のAFフレームが赤く点灯しません。点灯がわずらわしいときに設定します。

ただし、AFフレーム選択時は点灯します。

C.Fn III -5　AF補助光の投光

EOS用外部ストロボのAF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0： する

1： しない

AF補助光は投光されません。

EOS用外部ストロボのカスタム機能で、［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、C.Fn III -5-0に設定しても、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

C.Fn III -6　ミラーアップ撮影

0：しない

1：する

　望遠レンズを使用した撮影や、近接（マクロ）撮影で、ミラーの作動によるカメラブレを防止することができます。ミラーアップ撮影については、101ページを参照してください。

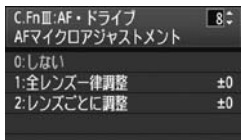
C.Fn III -7　AFフレームの領域拡大

0：しない

1：する

　AIサーボAF＋中央AFフレーム任意選択時に、6つのアシスト測距点（p.80）が機能して、合計7点で被写体を捉えることができます。中央AFフレームの1点だけでは捕捉しにくい、不規則に動く被写体を撮影するときに有効です。

C.Fn III -8　AFマイクロアジャストメント

通常はこの機能で調整を行う必要はありません。必要な場合のみ調整を行ってください。調整により適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。
なお、ライブビュー撮影時のライブモード、ライブ顔モードのAF調整はできません。

AFによるピント合焦位置を微調整することができます。調整範囲は、±20ステップ（−：前方向／＋：後方向）です。

1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放 FNo. によって異なります。**「調整→撮影（◢L）→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。**

1または2を選び〈INFO.〉ボタンを押すと、登録画面になります。
〈㎡〉ボタンを押すと、登録した内容を一括解除することができます。

0：しない

1：全レンズ一律調整

使用するレンズにかかわらず、常に設定量分シフトして合焦します。

2：レンズごとに調整

レンズの種類（銘柄）ごとに調整を行い、カメラに20本まで登録することができます。登録されたレンズを使用すると、設定量分シフトして合焦します。

すでに20本登録されているときは、上書き消去するレンズを選びます。

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 2設定時に、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ+エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- カスタム機能の一括解除（p.172）を行っても、登録した調整内容は保持されますが、設定は［**0：しない**］になります。

C.Fn IV：操作・その他

C.Fn IV -1　シャッター /AF-ONボタン

0：測光・AF開始

1：測光・AF開始/AFストップ

AF中に〈AF-ON〉ボタンを押すと、測距を中止します。

2：測光開始/測光・AF開始

移動／停止を繰り返す被写体を撮影するときに有効です。AIサーボAF時は、〈AF-ON〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。

3：AEロック/測光・AF開始

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈AF-ON〉ボタンで測光・AF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出決定）することができます。

4：測光・AF開始/無効

〈AF-ON〉ボタンは機能しません。

C.Fn IV -2　AF-ON/AEロックボタン入替

0：しない

1：する

〈AF-ON〉ボタンと〈✱/Q〉ボタンの機能が入れ替わります。

1設定時に、再生画像をインデックス表示や縮小表示にするときは、〈AF-ON〉ボタンを押します。

C.Fn IV -3　SETボタンの機能

よく使う機能を、〈SET〉に割り当てることができます。撮影準備状態で〈SET〉を押します。

0：通常（無効）

1：記録画質選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターに記録画質設定画面が表示されます。〈ダイヤル〉、〈サブダイヤル〉を回して記録画質を選び、〈SET〉を押します。

2：ピクチャースタイル選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイルの選択画面が表示されます。〈ダイヤル〉または〈サブダイヤル〉を回してスタイルを選び、〈SET〉を押します。

3：メニュー表示

〈MENU〉ボタンと同じになります。

4：画像の再生

〈▶〉ボタンと同じになります。

5：クイック設定画面

〈SET〉を押すと、クイック設定画面が表示されます。〈マルチコントローラー〉で機能を選び、〈サブダイヤル〉または〈ダイヤル〉を回して設定を変更します。

6：動画撮影（ライブビュー）

メニュー［**ライブビュー機能/動画機能設定**］で、動画撮影（p.121）ができる設定になっているときは、撮影準備状態で〈SET〉を押すと動画撮影が始まります。

C.Fn IV -4　Tv/Av値設定時のダイヤル回転

0：通常

1：設定方向を反転

シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。

マニュアル露出時は〈ダイヤル〉〈サブダイヤル〉、それ以外の撮影モードでは〈ダイヤル〉による設定方向が反転します。マニュアル露出時と露出補正時の〈サブダイヤル〉による設定方向が同じになります。

C.Fn IV -5　フォーカシングスクリーン

フォーカシングスクリーンを交換したときは、適切な露出で撮影するため、使用するスクリーンのタイプに応じて、設定変更を行ってください。

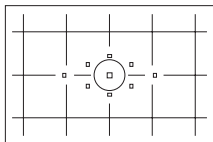
0：Eg-A

1：Eg-D

2：Eg-S

フォーカシングスクリーンの特性について

Eg-A：標準プレシジョンマット
購入時のカメラに組み込まれている標準フォーカシングスクリーンです。ファインダーの明るさと、手動ピント合わせのしやすさをバランスよく両立しています。

Eg-D：方眼プレシジョンマット
Eg-A に方眼線を引いたフォーカシングスクリーンです。構図の垂直・水平決めを楽に行うことができます。

Eg-S：スーパープレシジョンマット
Eg-Aよりもピントの山をつかみやすくしたフォーカシングスクリーンです。手動ピント合わせを主にされている方に有効です。

スーパープレシジョンマットEg-Sとレンズの開放絞り数値について

- F2.8以上の明るいレンズに最適化されています。
- F2.8より暗いレンズを使用すると、標準スクリーンEg-A装着時よりもファインダーが暗くなります。

- カスタム機能一括解除を行っても、設定内容は保持されます。
- 標準フォーカシングスクリーンはEg-Aですので、購入時はC.Fn IV -5-0に設定されています。
- フォーカシングスクリーンの交換方法については、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。
- C.Fn IV -5は、カメラユーザー設定の登録内容（p.187）に含まれません。

C.Fn IV -6　オリジナル画像判定用データの付加

0： しない

1： する

　撮影画像に、その画像がオリジナルであるか否かを判定するためのデータが自動的に付加されます。判定用データが付加された画像を撮影情報表示（p.129）で再生すると、〈🔒〉が表示されます。

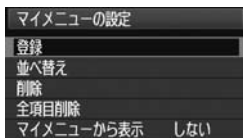
　オリジナル画像の判定には、オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3（別売）が必要です。

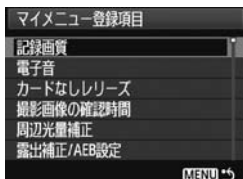
オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3の画像暗号化・復号機能には、対応していません。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、6項目まで登録することができます。

1 [マイメニューの設定] を選ぶ

- [★] タブの [**マイメニューの設定**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [登録] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**登録**] を選び、〈SET〉を押します。

3 登録する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選び、〈SET〉を押すと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順 2 の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

- **並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。[**並べ替え**] を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[⬍] が表示された状態で〈◎〉を回して並び順を変え、〈SET〉を押します。

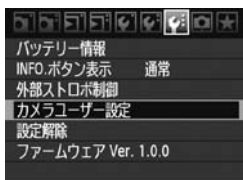
- **削除／全項目削除**

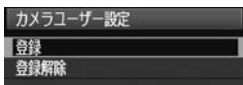
  登録した項目を削除することができます。[**削除**] を選ぶと1項目ずつ削除、[**全項目削除**] を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

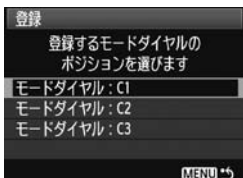
- **マイメニューから表示**

  [**する**] に設定すると、メニュー画面を表示したときに [★] タブから表示されます。

C1 カメラユーザー設定の登録 応用

撮影モードやメニュー、カスタム機能など、現在カメラに設定されているほとんどの内容を、モードダイヤルの〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉にカメラユーザー設定として登録することができます。

1 [カメラユーザー設定] を選ぶ

- [ ] タブの [**カメラユーザー設定**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [登録] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**登録**] を選び、〈SET〉を押します。

3 登録する

- 〈◎〉を回して登録するポジションを選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カメラの設定内容 (p.190) がモードダイヤルのC＊に登録されます。

カメラユーザー設定の登録解除

手順2で [**登録解除**] を選ぶと、登録前の初期設定に戻すことができます。操作方法は手順3と同じです。

登録される設定内容

● **撮影機能**

撮影モード＋設定値、ISO感度、AFモード、AFフレーム、測光モード、ドライブモード、露出補正量、ストロボ調光補正量

● **メニュー機能**

[撮影1] 記録画質、電子音、カードなしレリーズ、撮影画像の確認時間、周辺光量補正

[撮影2] 露出補正/AEB設定、ホワイトバランス、MWB画像選択、WB補正/BKT設定、色空間、ピクチャースタイル

[再生2] ハイライト警告表示、AFフレーム表示、ヒストグラム、スライドショー、電子ダイヤルでの画像送り

[設定1] オートパワーオフ、縦位置画像回転表示、画像番号

[設定2] 液晶の明るさ、センサークリーニング（自動クリーニング）、ライブビュー機能/動画機能設定

[設定3] INFO.ボタン表示、外部ストロボ制御

[カスタム] カスタム機能

● マイメニューの設定内容は、登録されません。
● モードダイヤルが〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉のときは、メニューの［設定3 **設定解除**］と［カスタム **カスタム機能（C.Fn）一括解除**］は、選択できません。

● モードダイヤルが〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉のときも、ドライブモードやメニューなどの設定を変更することができます。なお、その変更内容を登録したいときは、前ページのカメラユーザー設定の登録操作を行ってください。
● 〈INFO.〉ボタンを押すと、〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉に登録されている撮影モードを確認することができます（p.190）。

11

資料

撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。また、章の最後には索引を設け、知りたいことが見つけやすいようになっています。

INFO. 設定状態の確認

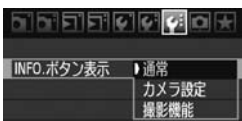
撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、「カメラ設定の内容」の画面と、「撮影機能の設定状態」の画面を表示することができます。

「撮影機能の設定状態」が表示されているときは、液晶モニターを見ながら撮影機能の設定を行うことができます。

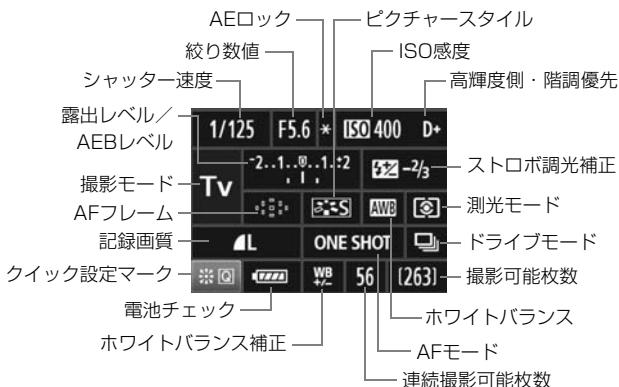
「カメラ設定の内容」と「撮影機能の設定状態」を表示する

- 〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ ボタンを押すたびに表示が変わります。

どちらか1つだけを表示する

- ［🔧:］タブの［**INFO. ボタン表示**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**カメラ設定**］または［**撮影機能**］を選び、〈SET〉を押します。

カメラ設定の内容

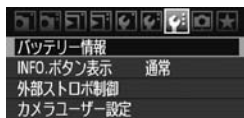
* ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E4使用時に、転送失敗画像があるときのみ表示されます。

撮影機能の設定状態

● 〈◈〉をまっすぐに押すと、クイック設定画面（p.38）になります。

● 〈ISO・⚡〉、〈AF・DRIVE〉、〈◎・WB〉、〈⊞〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈◎〉または〈◎〉で設定を行うことができます。AFフレームは〈◈〉で選択することもできます。

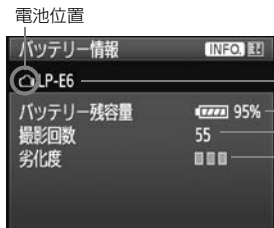
「撮影機能の設定状態」の画面が表示された状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに同じ画面が表示されます。解除するときは、〈INFO.〉ボタンを押して液晶モニターに画面が表示されていない状態で電源を切ります。

MENU 電池情報を確認する

使用している電池の状態を画面で確認することができます。また、バッテリーパック LP-E6には固有の番号（シリアル番号）が記録されているため、複数の電池をカメラに登録することができます。この機能を利用すると、手元にある登録済みの電池の残容量や、使用履歴を画面で確認することができます。

［バッテリー情報］を選ぶ

- ［¥:］タブの［**バッテリー情報**］を選び、〈(SET)〉を押します。

➡ 電池情報の画面が表示されます。

電池位置

使用している電池、または家庭用電源の型式が表示されます。

残量が、電池チェック表示（p.28）とともに、1%単位で表示されます。

使用している電池で撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。

電池の劣化状態が3段階で表示されます。

■■■（緑）：劣化していません
■■□（緑）：少し劣化しています
■□□（赤）：電池の買い換えをおすすめします

バッテリーパック LP-E6以外の電池は使用しないでください。カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- バッテリーグリップ BG-E6に、バッテリーパック LP-E6を2個入れたときは、2個分の電池情報が表示されます。
- バッテリーグリップ BG-E6に単3形電池を使用したときは、電池チェック表示の情報のみ表示されます。
- 何らかの原因で電池と通信できないときは、表示パネルとファインダー内の電池チェックが〈 〉の表示になります。［**バッテリーと通信できません**］と表示されますが、［**OK**］を選ぶとそのまま撮影できます。

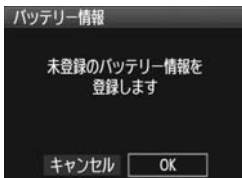
電池をカメラに登録する

バッテリーパック LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数の電池を登録するときは、電池ごとに以下の操作を行ってください。

1 〈INFO.〉ボタンを押す

- バッテリー情報の画面が表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 使用履歴画面が表示されます。
- ➡ 登録されていない電池は灰色で表示されます。

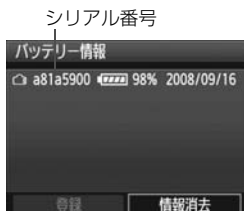
2 [登録] を選ぶ

- 〈◎〉を回して［登録］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

3 [OK] を選ぶ

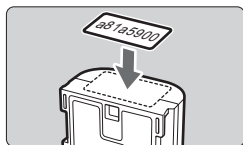
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 電池が登録され、使用履歴画面に戻ります。
- ➡ 表示が灰色から白色に変わります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、バッテリー情報の画面に戻ります。

- バッテリーグリップ BG-E6に単3形乾電池を装填しているときや、電源にACアダプターキット ACK-E6を使用しているときは登録できません。
- すでに電池が6個登録されているときは、［登録］は選べません。195ページを参照して、不要な電池情報を削除してください。

電池のシリアル番号が一目でわかるようにする

登録したバッテリーパック LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに書き留めて、すべての電池に貼り付けておくと便利です。

シリアル番号

1 シリアル番号をシールに書き留める

- 使用履歴画面に表示された番号を、横25mm×縦15mm程度のシールに書き留めます。

2 電池を取り出しシールを貼り付ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 電池室ふたを開けて、電池を取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼り付けます。
- この手順を繰り返して、すべての電池のシリアル番号が一目でわかるようにします。

手順2の図以外の位置にシールを貼り付けないでください。電池が入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。

登録済みで使用していない電池の残容量の確認方法

手元にある（現在使用していない）電池の残容量や前回使用した日を、画面で確認することができます。

シリアル番号を照合する

- 使用履歴画面の内容と、電池に貼り付けたシールのシリアル番号を照合します。
- ➡ 手元にある電池のおおよその残容量や、前回使用した日を確認することができます。

登録した電池情報を消去する

1 ［情報消去］を選ぶ

- 193ページの手順2で［情報消去］を選び、〈SET〉を押します。

2 消去する電池を選ぶ

- 〈◎〉を回して消去する電池を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 〈✓〉が表示されます。
- 他に消去したい電池があるときは、繰り返します。

3 〈削除〉ボタンを押す

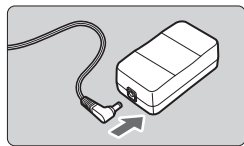
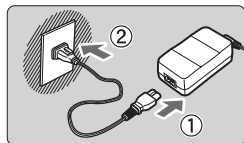
- ➡ 確認画面が表示されます。

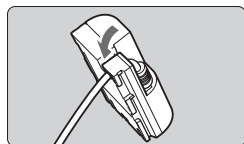
4 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 電池情報が消去され、手順1の画面に戻ります。

家庭用電源を使用する

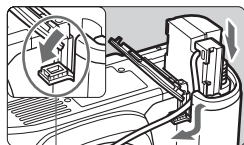
ACアダプターキット ACK-E6（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 DCカプラーのプラグを接続する

- DCカプラーのプラグを、ACアダプターのソケットに接続します。

2 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように接続します。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

3 コードを溝にはめ込む

- DC カプラーのコードを傷つけないように、ていねいにはめ込みます。

DCカプラーコード通し部

4 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DC カプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DC カプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。

カメラの電源スイッチを〈ON〉または〈⤶〉にしたまま、電源コードの抜き差しを行わないでください。

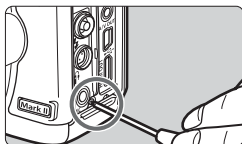
日付／時計機能用電池を交換する

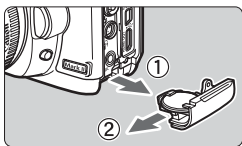
日付/時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約5年です。電源を入れたときに、日付/時刻がリセットされるようになったら、新しいCR1616リチウム電池を次の手順で交換してください。

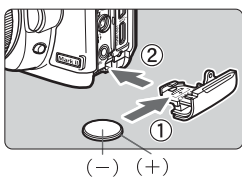
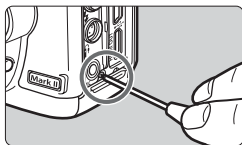
日付/時刻が初期化されますので、必ず再設定してください（p.42）。

1 電源スイッチを〈OFF〉にする

2 電池ホルダーのねじを取り外す

- 小型のプラスドライバーを使用します。
- 取り外したねじは、なくさないように注意してください。

3 電池ホルダーを取り外す

- 電池は②の方向に押し出します。

4 電池を入れ換えてホルダーを入れる

- ＋－を正しく合わせて入れます。

5 電池ホルダーのねじを締める

日付/時計機能用電池は、必ずCR1616リチウム電池を使用してください。

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可

モードダイヤル		□	CA	P	Tv	Av	M	B
記録画質	JPEG	○	○	○	○	○	○	○
	RAW	○	○	○	○	○	○	○
	RAW + JPEG	○	○	○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定	●	●	○	○	○	○	○
	手動設定			○	○	○	○	○
ピクチャースタイル	スタンダード	●	○	○	○	○	○	○
	ポートレート		○	○	○	○	○	○
	風景		○	○	○	○	○	○
	ニュートラル			○	○	○	○	○
	忠実設定			○	○	○	○	○
	モノクロ		○	○	○	○	○	○
	ユーザー設定			○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オートWB	●	●	○	○	○	○	○
	プリセットWB			○	○	○	○	○
	マニュアルWB			○	○	○	○	○
	色温度指定			○	○	○	○	○
	WB補正			○	○	○	○	○
	WBブラケティング			○	○	○	○	○
色空間	sRGB	●	●	○	○	○	○	○
	Adobe RGB			○	○	○	○	○
オートライティングオプティマイザ		●	●	○	○	○		
周辺光量補正		○	○	○	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減				○	○	○	○	○
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	○	○	○	○	○
高輝度側・階調優先				○	○	○	○	○

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可

モードダイヤル			□	CA	P	Tv	Av	M	B
AF	ワンショット				○	○	○	○	○
	AIサーボ				○	○	○	○	○
	AIフォーカス		●	●	○	○	○	○	○
	AFフレーム選択	自動	●	●	○	○	○	○	○
		任意			○	○	○	○	○
測光方式	評価測光		●	●	○	○	○	○	○
	部分測光				○	○	○	○	○
	スポット測光				○	○	○	○	○
	中央部重点平均測光				○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト			○	○				
	露出補正			○	○	○	○		
	AEB				○	○	○	○	
	AEロック				○	○	○		
	被写界深度確認				○	○	○	○	○
ドライブ	1枚撮影		●	○	○	○	○	○	○
	連続撮影			○	○	○	○	○	○
	セルフ10秒/リモコン		○	○	○	○	○	○	○
	セルフ2秒/リモコン				○	○	○	○	○
外部ストロボ	FEロック				○	○	○	○	○
	ストロボ調光補正				○	○	○	○	○
	ストロボ制御				○	○	○	○	○
ライブビュー撮影	静止画のみ				○	○	○	○	○
	静止画+動画		○	○	○	○	○	○	○

メニュー機能一覧

撮影1（赤）

		参照頁
記録画質	L／L／M／M／S／S RAW／SRAW 1／SRAW 2	54
電子音	入／切	−
カードなしレリーズ	する／しない	29
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	145
周辺光量補正	する／しない	70

撮影2（赤）

露出補正／AEB設定	1/3段ステップ、±2段	97
ホワイトバランス	AWB／☀／／／／／／／ K（2500～10000）	65
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	66
WB補正/BKT設定	WB補正：ホワイトバランス補正 WB-BKT：ホワイトバランスブラケティング	68 69
色空間	sRGB／Adobe RGB	76
ピクチャースタイル	Sスタンダード／Pポートレート／ L風景／Nニュートラル／F忠実設定／ Mモノクロ／1ユーザー設定1～3	59 ～ 64
ダストデリートデータ取得	ゴミ消し処理するためのデータを取得	149

再生1（青）

画像プロテクト	画像の保護	141
画像回転	画像の縦横回転	134
画像消去	画像の消去	142
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	163
送信指定	パソコンに送信する画像を指定	170
外部メディアへのバックアップ	WFT-E4（別売）経由、 外部メディア使用時に表示	−

□ の項目は、全自動（□/CA）モードでは表示されません。

再生2（青）

		参照頁
ハイライト警告表示	しない／する	129
AFフレーム表示	しない／する	129
ヒストグラム	輝度／RGB	130
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピートを設定して自動再生	135
での画像送り	1枚／10枚／100枚／1画面／撮影日／フォルダ／動画／静止画	132

機能設定1（黄）

オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／切	44
縦位置画像回転表示	する／する／しない	146
カード初期化	記録内容を初期化して消去	43
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	74
フォルダ選択	フォルダの作成と選択	72
WFTの設定	WFT-E4（別売）装着時に表示	－
記録機能とメディア選択	WFT-E4（別売）経由、外部メディア使用時に表示	－

機能設定2（黄）

液晶の明るさ	自動：3段階の明るさ調整 手動：7段階の明るさ調整	144
日付/時刻	日付（年/月/日）/時刻（時/分/秒）の設定	42
言語	25言語	42
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	139
センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	148
	今すぐクリーニング	148
	手作業でクリーニング	151
ライブビュー機能/動画機能設定	LV機能設定*／静音撮影／測光タイマー	108
	グリッド／AFモード／動画記録サイズ／録音	108

*〈□/CA〉モードのときは、項目が［**動画撮影**］に変わります。

機能設定3（黄）

		参照頁
バッテリー情報	型式、残容量、撮影回数、劣化度、電池の登録、使用履歴確認	192
INFO.ボタン表示	通常／カメラ設定／撮影機能	190
外部ストロボ制御	ストロボ機能設定／ストロボカスタム機能設定／ストロボカスタム機能一括解除	105
カメラユーザー設定	モードダイヤルのC1、C2、C3に現在のカメラ設定を登録	187
設定解除	カメラ設定初期化／著作権情報の消去	45
ファームウェア	ファームウェア変更時に選択	－

カスタム機能（橙）

C.Fn I ：露出	カメラの機能を細かく設定する	174
C.Fn II ：画像		176
C.Fn III：AF・ドライブ		178
C.Fn IV：操作・その他		182
カスタム機能（C.Fn）一括解除	カスタム機能をすべて解除	172

★ マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	186

故障かな？と考える前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

付属の充電器で電池が充電できない

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器または電池に異常が発生した場合や、(2) 電池と通信できない場合（純正以外の電池使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し／取り付けを行ってから、2〜3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は故障ですので、修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けた電池の内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、電池が高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、電池の温度が下がると自動的に充電が始まります。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.26）。
- 電池を充電してください（p.24）。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.26）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.29）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使ってください（p.24）。
- 電池の性能が劣化している可能性があります。メニュー［**🔧 バッテリー情報**］で電池の劣化状態を確認してください（p.192）。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
- クイック設定画面を表示したままにしたり（p.38）、ライブビュー撮影を長時間行うと（p.107）、撮影可能枚数が少なくなります。

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、メニュー［**🔧 オートパワーオフ**］を［**切**］にしてください。

撮影関連

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.29）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.29、142）。
- ワンショット AF でピントを合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.35、84）。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.31）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.34、35）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にして撮影してください。

カードが使えない

● カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、30ページ、または209ページを参照してください。

連続撮影可能枚数が少なくなる

● ［C.Fn II -2：**高感度撮影時のノイズ低減**］を［**標準/弱め/しない**］のいずれかに設定してください。［**強め**］に設定されているときは、連続撮影可能枚数（バースト枚数）が大幅に少なくなります（p.176）。
● 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、55ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない

● ［C.Fn II -3：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～6400になります。［**しない**］に設定すると、すべてのISO感度が設定できるようになります（p.177）。

〈**Av**〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

● 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出となるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［C.Fn I -7：**Avモード時のストロボ同調速度**］を、1または2に設定してください（p.175）。

ストロボが発光しない

● カメラにストロボ（またはシンクロコード）がしっかり取り付いているかどうか確認してください。
● 汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、［**静音撮影**］を［**しない**］に設定してください（p.104）。

ストロボがいつもフル発光する

- EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します（p.103）。
- ストロボカスタム機能の［**調光方式**］が［**TTL（自動調光）**］に設定されていると、常時フル発光します（p.106）。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

ライブビュー撮影ができない

- ライブビュー撮影を行うときは、メモリーカードを使用してください（ハードディスクタイプのカードの使用はおすすめできません）。ハードディスクタイプのカードは、メモリーカードよりも使用可能温度が低いため、ハードディスクを保護する機能が作動して、ライブビュー撮影が一時的にできなくなることがあります。カメラ内部の温度が下がると、ライブビュー撮影ができるようになります（p.112）。

ライブビュー撮影時にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定した静止画撮影ができない

- ［**画面表示設定**］を［**静止画用**］または［**露出シミュレーション**］に設定してください（p.109）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。実際の書き込み/読み取り速度が8MB/秒以上のカードを使用してください。なお、書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してからファイルサイズが4GBに達した時点、または29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。市販のマイクの使用をおすすめします（p.123）。

表示・操作関連

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターにゴミやほこりが付いているときは、眼鏡ふきや、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- 全自動（□/CA）モードでは一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**にしてください（p.40）。

画像の一部が黒く点滅する

- メニュー［**▶ ハイライト警告表示**］が［**する**］に設定されています（p.129）。

画像に赤い枠が表示される

- メニュー［**▶ AFフレーム表示**］が［**する**］に設定されています（p.129）。

画像を消去できない

- 画像にプロテクトがかかっていると消去できません（p.141）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_MG_」）になる

- 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.76）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります（p.74）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.42）。

テレビに画像が表示されない

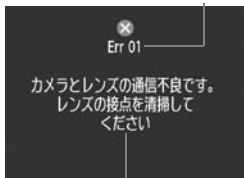
- ステレオビデオケーブル、またはHDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.139、140）。
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定してください（p.201）。
- 付属のステレオビデオケーブルを使用してください（p.139）。

印刷関連

印刷効果の項目が説明書より少ない

- 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています（p.158）。

エラー表示

エラー番号

原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

エラー状態から復帰させるときは、電源スイッチの〈OFF〉→〈ON〉、または電池の出し入れを行ってください。

エラー02（カードのトラブル）が表示されたときは、カードの抜き差し、または初期化で正常に戻ることがあります。

頻繁にエラー画面が表示されるときは故障ですので、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	➔ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する、カメラ・レンズの点検・修理 （p.13、16、裏表紙）
02	カードに問題があります。カードを交換してください
	➔ カード抜き差し、カード交換、カード初期化 （p.29、43）
04	カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください
	➔ カード交換、不要画像の消去、カード初期化 （p.29、142、43）
06	セルフクリーニングセンサーユニットが壊れています。サービスセンターで修理してください
	➔ 電源スイッチ操作、カメラの点検・修理 （p.27、裏表紙）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80	撮影できません。電源スイッチの〈OFF〉→〈ON〉、またはバッテリーを入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作、電池出し入れ、純正レンズを使用する、カメラ・レンズの点検・修理 （p.27、26、裏表紙）

システム図

アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEb
視度補正レンズE
アイカップEb
アングルファインダーC
フォーカシング
スクリーン
Eg-D Eg-S
ST-E2
220EX
430EX II
580EX II
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
主な付属品
フォーカシング
スクリーン Eg-A
ワイドストラップ
EW-EOS5DMKII
バッテリーチャージャー
LC-E6
バッテリーパック
LP-E6
日付/時計機能用
CR1616リチウム電池
カーバッテリー
ケーブル
CB-570
カーバッテリーチャージャー
CBC-E6
バッテリーグリップ
BG-E6
バッテリーマガジン
BGM-E6
ACアダプター
AC-E6
DCカプラー
DR-E6
ACアダプターキット
ACK-E6

タイマーリモート
コントローラー
TC-80N3
リモート
スイッチ
RS-80N3
ワイヤレス
コントローラー
LC-5
リモート
コントローラー
RC-5
リモート
コントローラー
RC-1
EFレンズ
外部マイク
HDMI ケーブル HTC-100
ステレオビデオケーブル STV-250N
テレビ／ビデオ
USB外部メディア
ワイヤレスファイルトランスミッター
WFT-E4
USB GPSユニット
EOS DIGITAL
Solution Disk
ソフトウェア
使用説明書
無線LAN
アクセスポイント
インターフェースケーブル
IFC-200U
無線LANアダプター
Ethernet端子
インターフェースケーブル IFC-500U
パソコン
USBポート
Windows Vista
Windows XP
Mac OS X
オリジナルデータ
セキュリティキット
OSK-E3
カードリーダー
PCカードスロット
CFカード
PCカードアダプター
PictBridge対応プリンター

主な仕様

■型式

型式……………………………… デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体………………………… CFカード（タイプI、II準拠、UDMA対応）
撮像画面サイズ………………… 約36×24mm
使用レンズ……………………… キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを除く）
（有効撮影画角は、レンズ表記焦点距離の等倍に相当）
レンズマウント………………… キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式……………………………… CMOSセンサー
カメラ部有効画素……………… 約2110万画素
アスペクト比…………………… 3：2
ダスト除去機能………………… 自動/手動/ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット……………… DCF2.0
画像タイプ……………………… JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数……………………… ラージ　：約2100万（5616×3744）画素
ミドル　：約1110万（4080×2720）画素
スモール：約520万（2784×1856）画素
RAW　　：約2100万（5616×3744）画素
sRAW1 ：約1000万（3861×2574）画素
sRAW2 ：約520万（2784×1856）画素
フォルダ作成/選択……………… 可能

■画像処理

ピクチャースタイル…………… スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
ホワイトバランス……………… オート、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル、色温度指定（2500～10000K）
ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* 色温度情報通信対応
ノイズ低減……………………… 長秒時露光、高感度撮影に対応可能
画像の明るさ自動補正………… オートライティングオプティマイザ機能により対応
高輝度側・階調優先……………… 可能
レンズ周辺光量補正…………… 可能

■ファインダー

方式.....................................ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率.................................上下/左右とも約98%
倍率.....................................約0.71倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント.....................約21mm（－1m^{-1}時/接眼レンズ中心から）
視度調整範囲.....................－3.0～＋1.0m^{-1}（dpt）
フォーカシングスクリーン...交換式（別売2種類）、Eg-A標準装備
ミラー.................................クイックリターン式
被写界深度確認..................可能

■オートフォーカス

方式.....................................TTL二次結像位相差検出方式
測距点.................................9点、およびアシスト測距点6点
輝度範囲.............................EV－0.5～18（常温・ISO100）
フォーカスモード.............ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AF補助光...........................EOS用外部ストロボのAF補助光による
AF微調整...........................AFマイクロアジャストメントにより対応

■露出制御

測光方式.............................35分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約8%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約3.5%）
・中央部重点平均測光
測光範囲.............................EV1～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御方式.....................プログラムAE（全自動、クリエイティブ全自動、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ
ISO感度.............................全自動、クリエイティブ全自動：ISO100～3200自動設定
（推奨露光指数）　P, Tv, Av, M, B：ISO100～6400任意設定（1/3段ステップ）、自動設定、およびISO50（L）、ISO12800（H1）、ISO25600（H2）の感度拡張が可能
露出補正.............................手動、AEB（手動露出補正との併用可能）
補正量：1/3、1/2段ステップ±2段
AEロック...........................自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式......電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度......1/8000～30秒、バルブ（すべての撮影モードを合わせて）
X=1/200秒

■ドライブ関係

ドライブモード......1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー 10秒/リモコン、セルフタイマー 2秒/リモコン
連続撮影速度......最高約3.9コマ/秒
連続撮影可能枚数......JPEG ラージ/ファイン：約78枚（約310枚）
RAW：約13枚（約14枚）
RAW+ JPEG ラージ/ファイン：約8枚（約8枚）
* 当社試験基準2GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定
* （ ）内の数値は、当社試験基準Ultra DMA（UDMA）対応2GBカード使用時の枚数

■外部ストロボ

対応ストロボ......EXシリーズスピードライト
調光方式......E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正......1/3、1/2段ステップ±2段
FEロック......可能
シンクロ端子......あり

■ライブビュー撮影機能

撮影モード......静止画撮影、動画撮影
フォーカス......クイックモード(位相差検出方式)
ライブモード／ライブ顔優先モード（コントラスト検出方式）
手動ピント合わせ（5倍/10倍拡大確認可能）
測光方式......撮像素子による評価測光（静止画）／中央部重点平均測光（動画）
測光範囲......EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
静音撮影......可能（静止画撮影）
動画......MOV（画像：H.264、音声：リニアPCM）
記録サイズ：1920×1080（Full HD）、
640×480（SD）
連続撮影時間：Full HD 約12分、SD 約24分
* 当社試験基準4GBカード使用時

■液晶モニター
形式..................................TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数.......3.0型/約92万ドット（VGA）
視野率...............................約100%
明るさ調整........................自動（暗め/標準/明るめ）、手動（7段階）
メニュー表示言語............25言語

■再生機能
画像表示形式....................1枚、1枚＋情報（記録画質、撮影情報、ヒストグラム）
4枚インデックス、9枚インデックス、画像回転可能
拡大ズーム倍率................約1.5〜10倍
画像表示検索....................1枚/10枚/100枚/1画面/撮影日/フォルダ/動画/静止画
ハイライト警告................ハイライト部分点滅表示
動画再生...........................可能（液晶モニター、映像/音声出力、HDMI出力）
スピーカー内蔵

■ダイレクトプリント機能
対応プリンター................PictBridge対応プリンター
印刷対応画像....................JPEG画像、RAW画像
印刷指定...........................DPOF バージョン1.1準拠

■カスタマイズ機能
カスタム機能....................25種
カメラユーザー設定.........モードダイヤルのC1、C2、C3に登録
マイメニュー登録............可能

■インターフェース
デジタル端子....................パソコン通信／ダイレクトプリント用（Hi-Speed USB）
映像/音声出力端子..........φ3.5mmステレオミニジャック（NTSC／PAL切り換え可能）
HDMIミニ出力端子..........タイプC（解像度自動切り換え）
外部マイク入力端子.........φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子....................N3タイプのリモコンに対応
ワイヤレスリモコン.........リモートコントローラー RC-1、RC-5に対応
拡張システム端子............ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E4接続用

■電源

使用電池............................バッテリーパック LP-E6、1個
* ACアダプターキット ACK-E6使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップ BG-E6装着時、単3形電池使用可能

電池情報............................残容量、撮影回数、劣化度確認可能

撮影可能枚数の目安.........ファインダー撮影
(CIPA試験基準による)　常温（＋23℃）約850枚、低温（0℃）約750枚
ライブビュー撮影
常温（＋23℃）約200枚、低温（0℃）約180枚

■大きさ・質量

大きさ...............................152（幅）×113.5（高さ）×75（奥行）mm

質量..................................約810g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度....................0℃～＋40℃

使用可能湿度....................85%以下

■バッテリーパック LP-E6

形式..................................リチウムイオン電池

公称電圧............................DC7.2V

容量..................................1800mAh

使用可能温度....................0℃～＋40℃

使用可能湿度....................85%以下

大きさ...............................38.4（幅）×21（高さ）×56.8（奥行）mm

質量..................................約80g

■バッテリーチャージャー LC-E6

形式..................................バッテリーパック LP-E6専用充電器

充電時間............................約2時間30分

定格入力............................AC100～240V（50/60Hz）

定格出力............................DC8.4V/1.2A

使用可能温度....................＋5℃～＋40℃

使用可能湿度....................85%以下

大きさ...............................69（幅）×33（高さ）×93（奥行）mm（プラグ収納時）

質量..................................約130g

■EF24-105mm F4L IS USM

画角....................................対角線：84°～23°20′
水平：74°～19°20′
垂直：53°～13°
構成枚数............................13群18枚
最小絞り............................F22
最短撮影距離.....................0.45m（撮像面から）
最大撮影倍率.....................0.23倍（105mm時）
画界....................................535×345mm～158×106mm（0.45m時）
手ブレ補正機能.................レンズシフト式
フィルター径.....................77mm
レンズキャップ.................E-77U
最大径×長さ.....................83.5×107mm
質量....................................約670g
対応フード........................EW-83H
対応ケース........................LP1219

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理受付窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国および他の国で登録された、米国アップル社の商標、または登録商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

＊ このデジタルカメラは、DCF 2.0とExif 2.21（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいな印刷出力結果を得ることができます。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

索　引

英数字

10秒後/2秒後撮影 86
1920×1080 121
1枚撮影 85
1枚表示 128
4枚/9枚インデックス表示 131
640×480 121
ACアダプターキット 196
Adobe RGB 76
AEB 97, 174, 175
AEロック 98
AF →ピント合わせ
AF-ON（スタート）ボタン 35, 182
AFストップボタン 178
AFマイクロアジャストメント 181
AI FOCUS（AIフォーカスAF） 80
AI SERVO（AIサーボAF） 79
Av（絞り優先AE） 92
B/W 60, 62
B（バルブ） 99
C1、C2、C3 20, 187
CA（クリエイティブ全自動） 51
CFカード →カード
DCカプラー 196
DPOF 163
E-TTL調光方式 106
EXスピードライト 103
FEB 105
FEロック 103
Full HD 121
HDMI 140
ICCプロファイル 76
ISO感度 57, 174, 191
　感度拡張 174
　自動設定 58
JPEG（ジェイペグ） 54
M（マニュアル露出） 94
MENUマーク 4
MF（手動ピント合わせ） 84
NR（印刷） 158
NTSC 201
ONE SHOT（ワンショットAF） 79
P（プログラムAE） 88
PAL 201
PictBridge 153
RAW+JPEG 54
RAW（ロウ） 54, 56
SETボタン 40
sRAW（スモールロウ） 54, 56
sRGB 76
Tv（シャッター優先AE） 90
Ultra DMA (UDMA) 29, 55
USB（デジタル）端子 154, 167
VIVID 158
WB →ホワイトバランス

あ

アイカップ 100
アイピースカバー 23, 100
アクセサリーシュー 104
アクセスランプ 30
アシスト測距点 80
色あい 61, 160
色温度 67
色空間 76
色の濃さ 61, 160
印刷 153
　〈印刷/転送〉ボタン 159
　印刷効果 160
　印刷指定（DPOF） 163
　傾き（角度）補正 161
　トリミング 161
　ピクトブリッジ 153
　用紙設定 156
　レイアウト 157
インデックス表示 131
ウルトラDMA 29, 55

液晶モニター......................................13
　明るさ調整..................................144
　画像の再生..................................127
　撮影機能の設定状態表示............191
　メニュー表示.......................40, 200
エラー表示......................................209
応用マーク..4
オートパワーオフ 27, 44
オートフォーカス　→ピント合わせ
オートライティング
オプティマイザ 47, 177
オートリセット 75
オリジナル画像判定用データ..........185
温黒調（印刷）..................................158
音量（動画再生）.............................138

か

カード..................................13, 29, 43
　入れ忘れ防止..................................29
　初期化（フォーマット）.................43
　トラブル..30
カードなしレリーズ...........................29
回転（画像）................134, 146, 161
外部ストロボ　→ストロボ
拡大表示...............................119, 133
拡張子..75
各部の名称..16
カスタム機能...................................172
　一括解除.......................................172
カスタムホワイトバランス................67
画像
　AFフレーム表示.........................129
　インデックス..............................131
　拡大表示......................................133
　再生...127
　撮影情報......................................129
　自動回転......................................146
　自動再生......................................135
　ジャンプ表示（画像送り）..........132
　手動回転......................................134
　消去 142
　テレビで見る...............................139
　ハイライト警告...........................129
　パソコンに転送...........................167
　ヒストグラム...............................130
　保護（プロテクト）....................141
画像転送..167
画像番号..74
画素数 54
家庭用電源.......................................196
壁紙 169
カメラ
　構え方 34
　カメラブレ.................................101
　設定初期化...................................45
　設定内容表示..............................190
カメラユーザー設定................20, 187
感度（ISO）.......................................57
強制リセット.....................................75
記録画質..54
記録機能..201
クイック設定画面..............................38
クイックモード................................113
クリーニング....................................147
クリエイティブ全自動.......................51
グリッド表示....................................111
クロス測距...83
ケーブル.........................3, 139, 140
言語の切り替え..................................42
高感度撮影時のノイズ低減.............176
高輝度側・階調優先........................177
合焦マーク...48
コード 3, 139, 140
故障 203
ゴミの写り込み防止........................147
コントラスト........................61, 160

さ

サーボAF....................................50, 79

再生　→画像
先幕シンクロ 105
撮影画像の確認時間........................ 145
撮影可能枚数 28, 55, 111
撮影機能の組み合わせ一覧 198
撮影機能の設定状態........................ 191
撮影情報表示 129
撮影モード 20
　クリエイティブ全自動................... 51
　絞り優先AE.................................... 92
　シャッター優先AE......................... 90
　全自動 48
　バルブ 99
　プログラムAE............................... 88
　マニュアル露出 94
撮像素子の清掃................................ 147
サブ電子ダイヤル.............................. 37
三脚ねじ穴 17
システム図 210
自動再生 135
自動選択（AF）............................... 81
視度調整 34
絞り込み 93
絞り優先AE....................................... 92
シャープネス 61
シャッターボタン.............................. 35
シャッター優先AE............................. 90
ジャンプ表示 132
十字測距 83
充電... 24
周辺光量補正 70
手動ピント合わせ................... 84, 119
消去（画像）.................................... 142
照明（表示パネル）........................... 99
初期化（フォーマット）.................... 43
白黒写真 60, 62
白黒（印刷）.................................... 158
白飛び.. 129
シンクロ設定 105
シンクロ接点 16
シンクロ端子 16, 104
スーパーインポーズ 179
ストラップ.. 23
ストロボ
　FEロック...................................... 103
　外部ストロボ 103, 104
　カスタム機能 106
　シンクロ（先幕／後幕）.............. 105
　ストロボ制御 105
　調光補正...................................... 103
　同調速度........................... 104, 175
スポット測光 95
スモール（記録画質）......................... 54
スモールロウ 54, 56
スライドショー 135
静音撮影... 120
静止画　→画像
セイフティシフト 175
設定初期化.. 45
セピア調（モノクロ写真）.................. 62
セルフタイマー 86
全押し... 35
センサークリーニング.................... 147
全自動... 48
送信指定（画像）............................. 170
測光モード.............................. 95, 191

た

ダイナミックレンジ 177
ダイレクト選択 179
ダイレクト転送 167
ダイレクトプリント　→印刷
ダストデリートデータ..................... 149
縦位置画像回転表示 146
中央部重点平均測光 95
忠実設定.. 60
調光補正...................... 103, 174, 191

長時間露光 99
調色（モノクロ写真） 62
長秒時露光のノイズ低減 176
著作権情報 46
デジタル端子 154, 167
手ブレ 33, 35
手ブレ補正機能（レンズ） 33
テレビで見る 139
電源
　オートパワーオフ 27, 44
　家庭用電源 196
　撮影可能枚数 28, 55, 111
　充電 24
　スイッチ 27
　電池情報 192
　電池チェック 28
電子音 48, 79, 200
電子ダイヤル
　サブ電子ダイヤル 37
　メイン電子ダイヤル 36
電池　→電源
動画
　再生 137
　撮影 121
　テレビで見る 139
通し番号 74
時計 42
ドライブモード 85, 191
トリミング（印刷） 161

な

ナチュラル/M（印刷） 158
ニュートラル 60
任意選択（AF） 81
ノイズ低減 176
ノーマル（記録画質） 55

は

バースト枚数 56
ハイビジョン 121, 140
ハイライト警告 129
パソコン
　画像転送 167
　デスクトップの背景（壁紙） 169
発光モード 105
バッテリー　→電源
バッテリーグリップ 192
バッテリーチェック 28
バルブ撮影 99
　ノイズ低減 176
半押し 35
番号 74
汎用ストロボ 104
ピクチャースタイル .... 59～ 64
ピクトブリッジ 153
被写界深度確認 93
ヒストグラム（輝度／RGB） 130
日付／時刻 42
　時計用電池の交換 197
ビデオ出力方式 139, 201
評価測光 95
表示パネル 18
　照明 99
標準設定（印刷） 158
ピント合わせ
　AFの苦手な被写体 84
　AFフレーム選択 81, 179, 191
　AFフレーム表示 129
　AF補助光 179
　AFモード 78, 191
　構図変更 50
　手動ピント合わせ 84, 119
　電子音 48, 79, 200
　ピンボケ 49, 84, 118
　ライブビュー撮影 113, 119
ピント板 184
ファームウェア 202
ファイルサイズ 55, 123, 129
ファイル名 74

ファインダー......19
視度調整......34
ファイン（記録画質）......55
フィルター効果（モノクロ写真）......62
風景......59
フォーカシングスクリーン......184
フォーカスモードスイッチ......31, 84
フォーカスロック......50
フォーマット（CFカード初期化）......43
フォルダ作成／選択......72
フチ（あり／なし）......157
部分測光......95
ブラケティング......69, 97, 174
プリント　→印刷
フルハイビジョン......121
プレシジョンマット......184
プログラムAE......88
プログラムシフト......89
プロテクト（画像の保護）......141
方眼マット......184
ポートレート......59
ホワイトバランス......65, 191
カスタム......67
ブラケティング......69
補正......68
マニュアル......66

ま

マイク（内蔵／外部）......124
マイメニュー......186
マニュアルフォーカス......84, 119
マニュアル露出......94
マルチコントローラー......36, 81
ミドル（記録画質）......55
ミラーアップ撮影......101, 180
メイン電子ダイヤル......36
メニュー
機能一覧......200
設定操作......40
マイメニュー......186
メモリーカード　→カード
モードダイヤル　→撮影モード
モノクロ写真......60, 62

や

ユーザー設定......187
用紙設定（印刷）......156

ら

ラージ（記録画質）......55
ライブビュー撮影......107
グリッド表示......111
撮影可能枚数......111
クイックモード......113
手動ピント合わせ......113, 119
情報表示......112
静音撮影......120
動画撮影......121
表示設定......109
ライブ顔優先モード......116
ライブモード......115
リモートスイッチ......100
リモコン撮影......100, 102
冷黒調（印刷）......158
レンズ......21, 31
周辺光量補正......70
ロック解除......32
連続撮影可能枚数......55
連続撮影（連写）......85, 191
ロウ......54, 56
露出シミュレーション......109
露出補正......96, 174

わ

ワイヤレスリモコン......102
ワンショットAF......79

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00～20：00
土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2008年9月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5240 - 000

PRINTED IN JAPAN
0000Ni0.0